

○目次

○地 理

巴 灣 の 名 稱 △ 臥 牛 山 の 今 昔 △ 函 館 市 街

○沿 革

蝦夷時代 △ 松前家時代 △ 奉行時代 △ 箱館府時代 △ 開拓使時代 △ 縣廳時代 △ 道廳時代

○開 化

五 段 落

○官 衙

區役所 △ 支廳 △ 稅關 △ 水上警察 △ 郵便電信局 △ 裁判所

○學 校

公私立小學 △ 各種學校 △ 中學校

○病 院

函館病院 △ 私立病院 △ 慈惠院

○社 寺

國幣中社外五社 △ 稱名寺外九箇寺 △ 會堂 △ 教會

○交 通

陸路 △ 海路

○遊 樂

公園地 △ 谷地頭 △ 新藏前 △ 湯ノ川温泉

○青 樓

△ 劇場及び寄席

○鐵道馬車

東西遊廓 △ 各料理店

○人情風俗

○有名なる商店の案内

△東濱町	二八
△仲濱町	三五
△西濱町	三七
△幸町	三八
△辨天町	三九
△大町	四三
△末廣町	五一
△地蔵町	八三
△豊川町	九二
△鶴岡町	九六
△若松町	一〇一
△海岸町	一〇二
△鮫淵町	一〇三
△宮岡町	一〇四
△會所町	一〇六
△相生町	一一一
△大黒町	一一五

△青柳町	一二七
△春日町	一一八
△寶町	一九
△東川町	二二
△四川町	三〇
△音羽町	三四
△真砂町	三五
△大森町	三六
△汐止町	三七
△船場町	四〇
△蕨比須町	四一
△蕨町	四七
△谷地頭町	四八
△小舟町	五〇
△龜山村	五一
△蓬萊町	五二

附東西遊廓及見物

○附録

○全國汽車旅行其他必要の事項

△途中下車驛及切符通用期限△旅客携
 帶品一時預入れの手續△貨物速達便運
 送規定△鐵道にて貨物運送の手續大要
 △貨車借切並に割引賃金△旅客手荷物
 並に小荷物運賃

○内國郵便略則	五
○内國電信略則	七
○電話稅略則	七
○印紙稅略則	八
○小包郵便規則摘要	八

函館案内

●地理

函館を案内するには先づ地理より始めざる可らず、天然自然の要害は如何に絶景の下に日本五港の價値を占むるか著者の詳説せんと欲する所なれども、近年要塞地帯に編入せられ居るを以て唯だ其概略を掲ぐ

▲**巴灣の名稱** 函館港を巴灣又は巴港と云ふは昔人の知る所也、此の名稱の起れる素より地形の然らしむる所、そも渡島の國たるや北海全道の南端に位し、其地勢は黒岳の山脈よ

地理

り起りて東西二脈に分れたり、東に亘るものは大川嶽となり、恵山岬に至りて遙かに陸奥の尻矢崎と相對し、西は即ち知内岳となり、東に折れて更に矢越岬を爲せり、又西に赴むくものは白神崎にして陸奥の龍飛崎と相望むさて白神と恵山との中央より更に斜めに海中に斗出するものは是れ有名の函館山と爲す、以上の地勢彎曲海水を抱きて茲に函館港を作り、灣形自然に巴狀を爲す即ち巴灣又は巴港の名稱起れる所以也

▲**臥牛山の今昔** 臥牛山とは即ち函館山を云ふ、是れ又形臥牛に似たるを以て此名あり、數年以前までは山上藥師堂を安置し三十三番の觀音を配し、毎年舊曆四月八日と云へば市

内は言ふも更なり、近郷近在より老若男女辨當を携へ或ひは酒肴を用意して登山し、函館歳事記の大立物なりしが、要塞砲壘を築かれ

て以来何人も登山することを得ず、觀音並に藥師如來も他に移轉せしめらるゝに至る

▲函館市街 山に據り灣に沿ひて其地勢は恰かも丁字の形を爲せり、遠く望めば一大城廓の如く、其美景名稱すべからざるものあり、

素と是れ臥牛山麓狹隘の地なりしを、山を缺き、海を填めて市街を作りしものなるが故に、海邊より山の手に行くに従ひ一町は一町より高く、坂路の多きと全國の都會中多く見ざる所也、町は分ちて四拾九箇町と爲す、其名稱は左の如し

宮前町、天神町、旗前町、向止町、船見町、段丘町、會所町、相生町、沙見町、曙町、森町、山脊泊町、春日町、青柳町、谷地銀町、隨潤町、幸町、元町、住吉町、大黒町、辨天町、大町、四濱町、仲濱町、東濱町、船場町、惠比須町、末廣町、蓬萊町、實町、地蔵町、鶴岡町、若松町、音羽町、高砂町、大福町、海岸町、豊川町、真砂町、東川町、四川町、大森町、沙止町、善場町、入船町、帆影町、新濱町、仲町

沿革

函館の沿革を記さむには蝦夷時代、松前家時代、奉行時代、箱館府時代、開拓使時代、縣廳時代、道廳時代の七段落となすこと何程の舊記に徴するも一軌に出づ、即ち左に順を逐ふて其大畧を叙述すべし

▲蝦夷時代 往古に於ける函館の歴史は漢乎として記録の徴すべきものなきが今日本紀に徴すれば人皇三十八代齋明天皇の御宇安倍比羅夫をして蝦夷地を征せしめ給ひ後方羊蹄に政所を置れたりとあり、此後方羊蹄こそ今の羊蹄獄と稱する本道第一の高山なれ、此頃には土人も多く住居したるが故に扱は政所を設けて彼等を制御したりしならん、夫より追々土人も滅じ之を制御するものなかりしが人皇一百八代稱光天皇の御宇嘉吉年間下國藤太といへるもの渡島して松前家の所領たりし下國に居たりけるが、後寶徳三年武田信廣なるもの南部の棚崎より渡り來つて下國を打亡ぼし天河(今の上磯郡に在り)と云へる所に住居を

定めぬ、是れが即ち全本島を支配せる松前家の祖先なり

▲松前家時代 松前家祖先渡道以來は我函館も亦其支配を受け來りし也、寶徳年中武田信廣等と共に渡島したる加賀守河野政通なる人此地に館(所謂陳屋の如きもの)を築きて之に據りしが、長祿年中蝦夷東部の夷人大に兵を擧げて來寇したるに加賀守は之と戦ひ利あらずして打死なしぬ、其後慶長年中龜田近傍の人民此地に移り來つて漁業を營なみ居りしが加賀守が築きたる館跡の形狀箱に似たるを以て函館と呼びしと云む

△案ずるに箱館は古昔の土言に「ウシヨケシ」と云へり、ウシは「ハウシヨ」の畧語に

て入輪を意味し、ケンは末端と云へる義にて即ち入輪の端の意也此地の海岸彎曲せるを形容せしものならむ、後ウシヨケンを轉じて白岸と稱したり

貞享年間蠣崎家（武田信廣南部の蠣崎より渡島に依て改姓せしならむ）の松前に移るに當り南部の人民此地に来るもの多し、爾來露西亞國屢々我が千島近海に出沒し擄捉、得撫等を侵して事體頗ぶる容易ならざることゝはなりぬ、されば徳川政府寛政十年御目附渡邊久藏、御使番大河内善兵衛、御勘定吟味役三橋藤右衛門を以て蝦夷巡視を命じ、同十二年より年々武器を廻送して第一に箱館に備えり、是に於て箱館を駐府となし當時龜田なる松

前家龜田奉行の住宅を修理せしめて之れに充つ△蝦夷問題は此の如く徳川政府の注目する所となり到底松前家の監督に一任すべからざる事となりければ内には江戸掛なるものを設けて蝦夷に關する事柄を管理し、外には漸次箱館に奉行を派するに至りしが是より本島に往來するもの益々多きを加へ來り、我が函館は之が中心の位置に立ちて愈々繁盛を増すととはなれり△享和二年御小納戸頭取戸川筑前守安倫、御目附羽太庄左衛門正義等蝦夷奉行を命ぜられ、同五月伊豆守信明朝臣より右兩人の役名は以來箱館奉行と稱ふべき旨を命ぜらる、抑も長祿元年武田信廣が蝦夷を統一して以來享和二年に至る三百三十四年間東西蝦

箱 館

四

夷地即ち北海道を支配したる領主を擧ぐれば

△長祿元年武田信廣 △明應三年五月信廣の子若狭守光廣 △永正十五年七月光廣の子若狭守義廣 △天文十四年八月義廣の子若狭守季廣 △天正十年季廣の三子伊豆守慶廣 △慶長五年慶廣の子若狭守盛廣 △元和三年盛廣の子志摩守公廣 △寛永十八年公廣の二子辨之助氏廣 △慶安元年氏廣の子志摩守高廣 △寛文五年高廣の子志摩守矩廣 △享保六年信廣六世の孫本廣の子志摩守邦廣 △寛保三年邦廣の子若狭守資廣 △明和二年資廣の子志摩守道廣 △寛政四年道廣の子若狭守章廣等

▲奉行時代 是より先寛政五年露船箱館及び

沿 革

松前に入る、大目附石川將監、村上大學之と應接す、享和二年七月二十四日幕府は東蝦夷永久上地の旨を松前若狭守に通達せるが其達し状は次の如し

蝦夷地の儀は前々より其方進退致し來り候處東蝦夷の方先達て當分御用地に相成候場所永々上地仰附られ西蝦夷の義は是迄の通り相心得仕置の儀は厚く心を用ひ候様仰出され其意を得らるべく候

是に於てか我箱館は三百年來の松前家支配を脱して幕府の直轄とはなれり

同三年春箱館役宅成る、惣掛地坪數三千三十坪餘、建坪六百三十坪餘、箱館奉行之に居り松前家に代りて東蝦夷を支配することとなり

五

ぬ△文化元年九月二十日備前守忠精朝臣より
下知ありて翌年左の制札を掲げたり

一異國人萬一來ることありと雖も交易は申す

に及ばず都て通路應對等堅く禁制の事

附たり若し疑はしき船等見掛候へば早々其

所の役所へ注進すべきは勿論差圖なくして

右體の船へ墜く乗り寄るべからざる事

一蝦夷人と相對の商賣は申すに及ばず總て蝦

夷地に於て私に産物商賣堅く禁止の事

一蝦夷人に對し非分の儀申し掛け或は産業の

妨げに相成候儀決して致す間敷事

一商人ども并に商船の類私に蝦夷地に入るべ

からざる事

一何船に限らず蝦夷地へ漂着の節は其處の役

所へ早々申出で差圖を受くべき事

右の條々相守るべく若し相背くに於ては嚴科
に行はるべき者也

又正徳年中宗教上に於ける事、船業上に於け

る事其外諸般の制札を箱館、鷲木、砂原、白尻、

龜田村、有川村、大野村、泉澤村、木古内村へ、

又右の高札を乙志村、尻岸村、小安村、當別村、

札川村、釜谷村、三石村、茂邊地村、富川村、三ッ

谷村、下湯川村、錢龜澤村、石崎村へ掲ぐ△文

化元年龜田村に萬年橋を造る、是れ龜田村の

因によりて萬年橋と名けしなりと、同二年大

に田畑を箱館近郷に開く、同三年十月五日箱

館辨天町河岸支店より出火し折節西北の風猛

威を逞ふし見るく同町表通り兩側内濶町ま

で延焼し山の上町に迄も及ぶ御役所坂下の總
門并に門番所高札場交代屋敷及び仕入物等入
れ置場の板敷二箇所、土藏一箇所類焼したる
が御役所并に役人の住居向き會所等は別條を
く市中にては寺院四箇の中實行寺、稱名寺、淨
玄寺及び町家大小三百十六戸を焼く、左れば
會所にては早速粥を煮類焼の老少に賑はせ
り又山ノ上町なる芝居を明けさせ彼等を立退
しめたるが人烟稀少の當時に在ては實に酸鼻
の極なる大火なりしと雖も既に同年間に在て
斯る市街を組織し芝居さへ設けありしは又以
て其盛況を思ふべし、此年始めて井戸を大町
に穿つ爾來外國船荐りに東蝦夷地擇捉近海へ
來寇するを以て幕府は愈々其防備に怠らず内

地諸藩より續々人數を本島に送り、我箱館へ

は南部勢三百四十二人、佐竹勢五百九十一人

を置けり△文化四年十月箱館奉行所を松前に

移し松前奉行と改稱せり△文政四年四月に至

りて松前家復封せられ再び東西蝦夷地を管轄

す△安政元年再び松前奉行所を箱館に移し、

箱館地方亦た幕府の直轄となる△此歲北米の

水師提督彼理神奈川に來り箱館を開かんこと

を請ふ同年米國船當港に入り翌二年米佛土露

四國の軍艦和次で當港に入る△同三年函館大

に海嘯もき雷鳴る、四年五月新錢を鑄り箱館

通寶と稱し之を松前、箱館に行なふ△同六年

箱館を開き日本五港の一と爲す△同年砲臺を

辨天町に築き、五稜廓を龜田に築く△文久元

内案館函

年目附を常港に置く△此歳箱館醫學所成る、
 元治元年五稜廓落成し箱館奉行移りて事を執
 る△慶應三年幕府政權を奉還し維新の大業爰
 に成ると同時に皇風颯々として蝦夷の蠻俗を
 拂ひ、明德熙々として不毛の曠野を開き、實
 にありがたき明治の御代と成りにける
 扱て享和二年松前家の支配を脱してより後幾
 變遷を経明治元年に至る六十一年間の北海道
 理事者を擧ぐれば次の如し

△「箱館奉行」―戸川筑前守安倫、羽太安藝
 守正義(享和二年)「松前奉行」―河尻肥後守
 元春(文化四年)村垣淡路守貞行(文化六年)
 荒尾但馬守成章(同九年)服部備後守後伊勢
 守貞勝(同十年)本田淡路守繁文(同十二年)

夏目左近將監信平(同十四年)高橋越前守重
 監(文政三年)「松前家復封」―松前若狭守章
 廣(文政四年)章廣の子隆之助良廣(同十年)
 良廣の子志摩守昌廣(天保十年)章廣六子伊
 豆守崇廣(嘉永二年)「箱館奉行」―竹内下野
 守保徳、堀織部正利熙(安政元年)村垣淡路
 守範正(同二年)津川近江守正路(同五年)勝
 田伊賀守充滿(萬延元年)糟屋筑後守義朋
 (文久元年)小出大和守秀實(同二年)奉行格
 新藤鉛藏方涼(同三年)奉行格橋本悌藏(元
 治元年)杉浦兵庫守勝誠(慶應二年)外國奉
 行兼勘定奉行栗本鯉(同三年)

▲箱館府時代 王政復古の大業成り明治元年
 四月十二日箱館裁判所を置き、軍防事務局都

内案館函

督嘉彰親王を總督に、清水谷公考、土井利恒
 を副總督に任じ、井上石見、岡本監輔、山東
 一朗、小野淳輔等に命じて事務を幹理せしめ
 しが、閏四月二十四日改めて箱館府を開き、
 清水谷公考を箱館府知事に任ず△同五月元箱
 館奉行杉浦兵庫守土地人民金穀圖書器械を收
 めて判事井上石見に致す

八月徳川家脱走の徒榎本釜次郎を始め數百人
 我が箱館を侵して之に據る、市内の人心恟々
 として家屋の兵燹に罹るもの數多く市民僅か
 に身を以て箱館山に遁れたり、是が有名なる
 箱館戦争なりける、此折箱館府知事清水谷公
 考は青森に退ぎきたり

同十一月箱館産物問屋仲買の名稱を改めて販

賣人と爲し大阪、兵庫、境、敦賀等に會所を設
 け之に依らずして直接販賣するを禁じたり△
 同二年五月官軍撃つ徳川殘黨の亂を平らぐ、
 七月箱館府を廢して函館縣を置き、尋で開拓
 使に改められ鍋島直正之れが長官に任ぜらる

▲開拓使時代 明治二年八月始めて蝦夷を北
 海道と改稱せられ、全道を領ちて十一國八十
 六郡と爲し、省府藩士族寺院の支配を定む△
 此月東久世通禧開拓使長官に任ぜられ、九月
 舊箱館裁判所を以て開拓使出張所と爲す

三年函館に病院を建つるを議し、閏年十月十
 三日判官岩村通俊、權判官杉浦誠等各國領事
 館と計りて函館山脊泊に外國人墓地を定め
 り△四年三月開拓使本廳を置きしはより、東

函館案内

久世長官岩村判官は函館を引拂ひて札幌に移る四月函館に燈明船を設け工部省の掌する所となり、五年函館札幌間及び函館、青森間の電線成る△六年三月函館大火あり延焼千三百餘戸に及び死する者あり、此歳函館、森、間の馬車往復を始む△七年福島より福山を経て函館へ電線を通ず△函館裁判所を設け從來開拓使函館支廳に於て管理せる聽訟斷獄の事務を映掌せり

此歳始めて函館、青森間の郵船を開く△八年四月函館又大火あり四百戸を燒盡す△九年七月天皇東巡青森より海を踏む函館に幸じ給ひ驛を駐めさせらるること一日、函館支廳へ御臨幸協同館へ御させ給ふ△此時三等出仕杉浦

誠は北海道地誌要領外十九部を奉り上奏する左の如し

伏シテ惟ミルニ皇政維新首トシテ開拓ノ詔ヲ下シ本使ヲ置キ専ラカヲ開闢ニ盡サシム臣誠幸ヒニ昭運ニ遭遇シ上、龍鱗ヲ攀テ明リニ萬乘ノ憂ヲ分チ下、驥尾ニ附シ擅マニ一方ノ寄ヲ受ク臣誠治民ノ術ニ乏シト雖モ亦 陛下德威ノ厚キニ倚ル今ヤ管内所域既ニ拔ケ行道大ニ免ル戸數漸ク殖ニ十萬二千餘人、旧野日ニ墾シ二千四百町餘、漁獲歲ニ豐カニ十有一萬石餘、小學校立チ生徒以テ教育スヘク、傳習所開ケ教師以テ陶成スヘシ、一條ノ平道ハ街衢ヨリ森村ニ達シ狹メテ陸路搬送ノ便アリ數艘ノ汽船ハ港口ヨ

函館案内

リ青森ニ航シ始メテ海洋運輸ノ利アリ、電信郵便ヲ設ケ、濟生恤貧ノ法庶績緒ニ就キ次第ニ舉行ス、是レ皆

陛下盛德ノ致ス所ト本使調理ノ宜キヲ得ルトニ因ル、况ンヤ今 聖上親臨地方深ク甘雨ノ澤ニ霑ヒ人民誰カ報恩ノ志ナカラン臣誠縦ヒ期月自ラ理スルノオニアラザルモ亦タ三年都ヲ成スノ効ヲ視ン臣誠衆庶ト與ニ此曠世ノ昌期ニ際シ非常ノ盛典ニ逢フヲ祝シ抃舞ニ堪ヘズ梗概ヲ上奏スル此ノ如シ

天皇陛下大御心を我が北海道に垂れさせ給ふは申すも畏れ多き事共にて此折 天皇には更に岩倉右府をして開拓着手の順序管内施政の畧を問はせ給ひ杉浦誠之に奉答すらく「開拓

ノ業ハ永遠ヲ期スベク且夕ノ功ヲ見ル可ラス其要目着ヲ變セサルニ在リ且ツ開墾ノ如キハ論ヲ待タズ、漁業ハ地勢ノ宜キニ因リ忽セニス可ラス」と仍て開拓使施行の事業、函館施政及び風俗等の畧を奏す△同九月北海道大小區劃を定め、大區三十小區百六十と爲す、是より先五年五月區劃制定に際し函館市街を三大區五小區に分つ十一月函館大火あり、十二年又大に火を失す、七月二十三日大小區劃を廢し郡區を置き區役所を當地に置き始めて函館區と稱す、龜田、上磯二郡役所を龜田郡龜田村に設く△十一月農業假博覽會を函館に開く△十三年函館區會を開設す、十四年九月六日天皇北巡再び驛を函館に駐めさせられ、北白

川宮能久親王函館支廳に臨み、大書記官時任爲基左の表を上る

恭シク惟ミレハ 天皇陛下神明其德寰宇ヲ照臨シ愛ヒ蒸黎ニ功ニ、慮リ稼穡ニ深ク萬機ノ餘暇敢テ逸豫セス方ヲ省ミ化ヲ布キ幸子慮議ナシ炎天風ニ御シ變結既ニ南方ニ幸シ迅鯨波ヲ凌キ龍艦又北海ヲ巡ル時雨ノ澤遠ク札幌ニ被リ來蘇ノ惠再ヒ函館ニ施ス葵忱后ヲ俟ツ望霓ヨリ切ニ庶民子來シ乃チ行宮ヲ營ス結構神速輪煥ノ美少シト雖モ風光天然庶クハ微藻ノ麗ヲ資ケンコトヲ聯山北ニ秀テ黛色ヲ簷角ニ呈シ積水西ニ涯リテ鏡光ヲ 陛下ニ奉ス此レ寔ニ聖德ノ致ス所人爲メニ山ヲ然ルニアラス臣叨リニ司牧ニ

鷹リ親シク盛事ヲ觀ル踊躍ノ誠恒品ニ百倍ス慶林感悅ノ至ニ任ルナシ謹テ表ヲ奉シ陳賀以開ス

支廳一覽表を奉つり管内施治の要を上陳し丁り廳中の各課を天覽せらる市内の紳商拜謁を仰せ附けられ七日聖駕青森へ航し給ふ△十五年二月八日開拓使を廢し函館、札幌、根室の三縣を置く

▲縣廳時代 開拓使廢せられ三縣を置くに當り函館縣令に任ぜられたるものを時任爲基と爲す、函館縣廳管轄區域は矢張り開拓使函館支廳當時の管轄區域と同じ、縣治時代の續きは僅かに四年にて此間何事の取立て舉ぐべきものを有せず當時新開地のことゝて自然内

地各縣と風俗人情を異にするものあり、同一縣治の下に支配せられざるの事情あるより縣廳時代も十九年一月を以て終り同月二十六日北海道廳を札幌に置き函館根室に支廳を置くこととはなれり

迄長官を代ふること八人即ち左の如し
岩村 通俊 永山 武四郎
渡邊 千秋 北垣 國道
原 保太郎 安場 保和
杉田 定一 園田 安賢
箱館區長より支廳長に至る迄の更迭は左の如し
二木 彦七 添田 弼
椎原 邦太 曾我部 道夫
財部 堯 龍岡 信熊
加藤 廣説 龍岡 信熊

●開化

函館開化の由來は其天然の地勢良港たるが爲めに種々外部の補助を得たるに依るべしと雖ども、今其進歩の段落を區別すれば左の五階級となすを得べし

- ▲第一は奉行所設置、第二は開港、第三は戦亂、第四は火災、第五は區制施行即ち是れ也
- ▲さしも繁華を街ふ函館市街も其始めは不完全なる集落に過ぎざりしに享和三年始めて奉行所を設置せられしより茲に一進歩を來したり
- ▲それより諸外國の領事館を設置し外國商人等の居留するもの多く外國貿易は茲に開かれ函館の繁華を増加せしこと著るしきに至る

▲又明治維新の戦亂時期となりては一般に古來の風物を打破し歐米の新様に移らんとする大勢の勝利となりたる事故開港場たる函館の面目に長足の進歩を促がしたること素より論を俟ず ▲次は明治十一、十二年兩度の大火に伴ふて市街道路の改正を行ひたるとなり殊に十二年の大火は未曾有の災厄にして元堀江町即ち今の東濱町より發火し戸數二千二百餘戸を蕩盡し爾來大火のある毎に道路改正を断行し全く不規律なる状態を一變するに至る ▲最後は即ち三十一年の區制施行なりとすこは多年特別保護の下にあり憲政の民となりつゝ自治の權を得る能はざりしに始めて札幌、小樽と共に自治制度の初階級に入りし也

●官衙

▲函館區役所 三十一年區制施行以後設置せしものなるが今猶ほ假りに函館支廳内に在り、年月未だ淺きを以て沿革の記すべきものなし、區長は林悦郎也

▲函館支廳 是れ大いに沿革を有する官衙なり、位置は函館元町に在り、松前藩所轄の時に館番所を此に移せしもの、其始め官吏常に居らず、事あれば來り臨み、事罷は去る、享和二年幕府函館奉行を置き東蝦夷を措置す、三年春官廳成る、後ち元治元年廳を五稜廓内に移し、明治元年改めて裁判所となす、十月賊軍陥れて之に據る、二年五月事平らぎ又函

館舊廳に移る、七月開拓使を置き、九月開拓使出張所となし長官以下此に在て事を執る、十五年三月開拓使を廢して函館縣を置き、十九年一月縣廳を廢して北海道廳を置き、復た全道を一統するに當て支廳を此に置き、十二月支廳を廢し長官出張所となし、二十三年六月出張所を廢して外交事務を函館區役所に兼務するに至れり、其後區役所を廢し支廳となりしが、三十一年市町村制實施に當たり再度區役所を置き、外交事務は支廳内に於て扱ふ ▲函館税關 其昔運上所と稱す、明治二年八月函館府議事局より開拓使に附す、五年今の仲濱町に建築し函館運上所と稱す、六年一月税關と改稱し大藏省所管に歸せしものなり

▲水上警察署 寛政十一年正月幕府沖の口番所を置き、明治二年九月函館府議事局より開拓使に附せられ之を海官所となす、八年二月船頭所と改稱し、尋で船政所を廢し今の水上警察署を置き函館警察署の分署となし出入の船舶を點檢す

▲函館郵便電信局 明治五年七月これを設け函館東京間の線路を開く、二十年電信局を併せて今の名稱となす、信書及び電信の取扱數は全國稀に見る所なり

其他主なる官衙には函館控訴院、函館區裁判所、函館地方裁判所、函館稅務所、函館船舶司檢所、函館警察署、憲兵屯所、函館測候所、築城部函館支部、北海道監獄署函館支署、要

塞砲兵大隊、御料局出張所等あり

●學校

現在の公私立小學校及び各種學校を舉れば左の如し

- ▲公立 彌生小學校、寶小學校、幸小學校、函館女子高等小學校、東川小學校、高砂小學校、住吉小學校、以上
- ▲私立 堀川小學校、一貫小學校、若山小學校、鶴岡小學校、古川小學校、吉祥女學校、六和女學校、惠以小學校(以上の内吉祥六和惠以の三校は各寺院の設立に係るもの)
- ▲各種學校 函館英語學校、巴學校、簿記傳

●病院

習所、大石裁縫女學校、開北學會、繪畫專門學校、早川裁縫女學校、函館幼稚園、以上

▲外國人設立學校 遺愛女學校、元町女學校、(舊聖保祿)、靖和女學校、正教學校、函館訓盲會等

▲函館中學校、函館商業學校、函館商船學校

いづれも應立に係る

以上公私の學生男女を合して確實なる調査を経ざれども一萬以上に達すべし

▲函館病院 明治二年九月舊山の上町民政方病院を開拓使に屬し函館病院と改稱せり、十

二年火災に罹り、十四年天神町に新築し、二十三年四月公立となる、三十三年院内より火を失し、豊川病院にうつる、豊川病院は明治十一年の設立にかゝり第一公立病院と唱へしが十四年十月豊川病院と改稱し、久しく兩立したれど火災後は一となれり、函館病院再築の風説あり、遠からず完全せる病院をみるに至るべし、目下の院長は佐藤醫學士

- ▲私立病院 深瀬病院、藤野病院(婦人科)、函館外科病院(院長桑原)、五稜眼科院、驅椋院、後藤病院、山利病院其他數ふるに遑あら
- ▲慈惠院 先年東川町に設立され、孤兒、貧兒、病者を收養せられつゝあり

●社寺

▲國幣中社八幡宮 谷地頭町にして臥牛の山腹に鎮座し函館第一の大社也、年を重ねること二百四十餘年▲山の上大神宮 天和年中龜田村にありしもの▲船魂社 創建されしは保延年間と云ふ▲住吉神社 明暦元年鎮座す▲海神社 今を去る百十餘年前の創建にかゝるものにて其他稻荷神社等妙からず▲招魂社 船見町にあり、明治二年官軍の戦死者を祀る、同年九月創建、同十年七月拜殿を建築さる

▲稱名寺(淨土) 正保元年龜田村に創立し、目下船見町に在り▲高龍寺(曹洞) 寛永十年

り、本年に入りて更に函館組合教會なるもの曙町に創立さる

龜田村に創立したるもの、目下葦町にあり▲實行寺(日蓮) 明暦元年上町に創立し今船見町にあり▲大谷派別院 舊淨玄寺と稱したり、寶永八年中木古内村に創立せしを寶永五年函館に移す、今元町に在り▲西本願寺別院 安政四年東川町に開始さる▲眞言寺 葦町に在りて天保十一年の創建▲新善光寺 安政六年の創立▲常住寺 日蓮宗本山久遠寺の末派、明治十二年創立▲高野寺 明治十七年創立▲新注連寺 明治二十四年創立▲其他信州善光寺出張所 成田山新勝寺の末寺等東川町に近來創建されたるものあり

外教には英、露、佛の寺院山の手に在りて、函館メソヂスト教會 日本基督函館教會等あり

●交通

▲陸路 函館より福山に到る二十五里二十丁四十九間(此間上磯、谷好、富川、茂邊地、石別、釜石、泉澤、札笥、木古内、尻内、福島、白符、宮歌、吉岡、荒谷、大澤等の各村あり) 旅行の不便なし▲函館より森村に到る十一里十八丁(此間龜田、桔梗野、大中山、七飯、藤城、峠下、宿野邊等一里乃至二里の小村あり)▲函館より江差にいたる十九里二丁三十里七間にして(此間大野、本郷、市の渡、中山、

鶴山道、俄虫、土橋、目名、田澤、泊)の各村を経て馬車の便あり

▲海路 函館、小樽間 福山迄四十二海里、福山より江差迄四十海里、江差より上り葦都八十四海里、葦都より岩内十八海里、岩内より小樽まで六十八海里にて函館より小樽まで二百十八海里とす▲東海岸至根室二百八十九海里にて乗船賃は根室迄一等八圓、三等三圓五十錢▲函館岩内間の賃錢は函館より江差まで並等一圓五十錢、葦都まで二圓、岩内まで二圓二十錢、函館より小樽まで並等二圓等に小兒四歳未満は無賃、十二歳未満は全運賃の半額とす

青森、函館、室蘭間には朝夕(隔日)の定期を設けられ、札幌間の鐵道と連絡を通じ其便いふ計りもなし

遊樂

此欄には公園地、谷地頭、新藏前、湯の川温泉、劇場及び寄席を紹介すべし

▲公園地 その規模は箱庭的なるもその眺望は無限なり、西南臥牛山を負ひ、右は尻澤邊より沙首を望み渺茫たる大海原を控へて火輪船の往來を眼下に集む、四時の漁舟絶ゆることなく海を隔て、南部津輕の青黛模糊を望むの大觀蓋し日本の各地公園中見るを得べから

ざる舞臺ならむ、而して左は直ちに市街に接して巴海の賑はい入船出船を數へつべく、灣を隔てては遙かに駒ヶ岳及び七重諸山を掠め赤川の水源より五稜廓湯の川等を肩腰の間に齎らし來る、若し夫れ園の一角なる楠鉢山に登らむには海山百里の絶景を摘みすべし、故黒田清隆君の開拓使長官たりし當時園内の碑石に題し、「海山奇勝」と記せしもの過賞にはあらずるなり、園は明治十一年の設立に係り、翌十二年工事の落成を告ぐ、當時函館縣令時任爲基君等を始め區内有志大いに設計に盡力したるが、就中淺田樓主人故淺田清次郎氏の如きは設計に與つて大に力ある人なり、園内梅樹櫻樹に富み、五月の候梅櫻一時に開くの

奇觀は亦他國に見る可らず、園内二箇の博物館(水産陳列場)あり、全道海陸の産物、舊土人の手工品、奇魚奇獸の標本、漁具獵具の雛形等餘す所なく實に人造天工兼備の娛樂園たり ▲谷地頭 公園の眼下に一の閑雅なる低地あり名けて谷地頭と云ふ、函館第一の大社八幡宮茲に在り、戊辰の役に斃れたる幕臣を祭りし碧血碑も茲に在り、區内紳士の別荘、割烹店等各所に散在す、割烹店中淺田樓、勝田樓、百花園、柳川等は普ねく人の知る所、又名物葛餅あり、勝田温泉効驗著るしく浴客四時未明より押掛け頗ぶる繁昌なり ▲新藏前 舊藏前は西川町に屬し昔時常平倉のありし所なるを以て藏前の稱あり此地七八

年以前までは露店兩側に並び百貨を陳べて其般賑淺草藏前若くは東京各所緑日の有様に似たりしが街路取締上場所を東川町に移され茲に新藏前と名稱を更ふる事となれり、夏秋の候殊に繁昌を極め、見世物機關手踊輕業等の興行絶へず、すしや蕎麥店天麩羅ちでん烟酒等あらゆる飲食店を出し昔時の藏前を此の片隅に寫し出しぬ、名物の白首又此邊に菓窟を構へ、田舎出の哥兒を引くことむかしも今も異ならず ▲湯の川温泉 は函館を距る二里許の龜田郡下湯の川村にあり函館よりは鐵道馬車通じて往復すべし、温泉は數箇所に開發され、湯元は石川と云ふ、其他洗心館、林長館、保養

園等にて何れも旅館料理店を兼ね、四時共に唯一の保養所とし、就中夏季は遊客多し、土地海濱に沿ふを以て鮮魚に富む、やゝ秋季に近づきて附近の川に鮎釣の快楽あり、遊獵の候銃を肩に一泊を試みるも妙なり

▲温泉の効能

慢性胃及び膈加答兒、慢性腰痛、肝臟充血、慢性神経病、慢性皮膚病、慢性佝僂質斯、梅毒性諸病、慢性胃消化不調、重病快復期、泌尿器加答兒、慢性麻痺病、脚氣快復期、婦人生殖器病、慢性痛風、腺病、痔の出血より起る貧血病、慢性下痢、シキールホーク(口中の病)、婦人の不孕、月經不順、其他諸病によしとせき

遊 樂

其他の遊覽場、温泉として數ふべきもの多きなれど湯の川より一里半、錢龜澤に至らば、年古し「枋の連理木」をみるべく、一里北方に當りて神山の温泉あり、なほ四五里遠くには尊榮沼といへる雅客の必ず杖を曳くべき個所あり、初夏沼に一般の船を浮べて鮎をつるべく、尊榮沼に一瓢の飲かたむけざるべからず、月薄き森の真上に杜鵑の聲をきく、此地年々避暑の候、外國軍艦の入港に際し、多くの將校馬を馳せ或は馬車を驅て向ふ

▲劇場及び寄席 鱒淵町に函館座あり、資町に池田座、大和座あり、東川町に巴座あり以上は常設劇場にして概ね開場す、又寄席には大黒町に登樂亭、第二いろは亭あり、惠比

須町に竹内亭、東川町に第一いろは亭あり

●青 樓

市街の東西二所に分れて遊廓地あり、東を蓬萊町と爲し西を登町と爲す、東廓は吉原に似て西廓は洲崎に似たり、明治十二年及び二十九年兩度の大火に逢ひて全廓烏有に歸したる事ありしも、直に舊觀に復して絲竹喧囂曉に徹し電燈の光煌々として眞に不夜城の名を欺かざるの趣ありしが同三十三年内務省訓令に據り一般の店張を廢せられてより亦昔日の盛觀無く、僅に低唱微吟の痴態を演ずるに過ぎず、三十四年中の調査に據れば、

蓬 萊 町

自宅營業者及び見番藝妓 七十九名

娼 妓 三百三十八名

大 黒 町

自宅營業者及び見番藝妓 四十七名

娼 妓 (臺町) 六十六名

外に娼妓檢査所東西に一個宛あり、兎に角く前々年に比して著しく減少せる傾きあり、今東西兩廓の貸座敷并に割烹店を左に掲ぐ

○東廓之部 (蓬萊町)

- 梅香樓、金盛樓、金菊樓、丸高樓、外月樓、丸山樓、石港樓、いろは樓、武藏野支店、樋口樓、松月樓、風月樓、山口樓、二葉樓、盛喜樓、北越樓、宮城野樓、九十九樓、北海樓

一文字樓、武藏野樓、石港樓支店、新保樓、朝日樓、新開樓、喜盛樓、蓬萊樓、盛龜樓、招盛樓、丸山樓支店、静岡樓、泉樓、山多樓、幾多樓、田中樓、正菊樓、常盛樓、吉野樓、宮城樓、明治樓、朝野樓、幸龜樓、新盛樓、圓玉樓、晴弘樓支店、大川樓、新金丸樓、迎陽樓、晴弘樓、三河樓、山喜樓、清嘉樓、弘盛樓、吉田樓、越前樓、

○西廓之部 (登町)

喜笑樓、岩手樓、富山樓、豊平樓、福山樓、鶴松樓、常陸樓、大黒樓、富山樓、久米川樓、安井樓、九金樓、

○割烹店 (東西兩廓及び廓外とも)

小林亭、淺田屋、勝見家、丸も、勝田、山田、

百花園、輪島屋、北海家、金中、角中、山松今長、喜仙亭、角鱗、柳月、昇月、天新、藤のや、まきのや、美どり、さくら井、

○西洋料理

五島軒、扶桑軒、北榮軒、五稜館、芳來亭、常盤木、

○鰻屋

一入川、入川、山川等にして其他枚舉するに遑めらざるをり

●鐵道馬車

▲馬車鐵道株式會社 東川町二百二十八番地

創立當時九萬圓

資本 現今 拾五萬圓

目的布設線路は龜田村龜田橋を起點とし函館區海岸町若松町鶴岡町地蔵町末廣町大町辨天町に至る二哩半、同辨天町より幸町西濱町仲濱町東濱町を経て末廣町永國橋に到る一哩半合して三哩半に幅四尺の複線軌道を設く、又同末廣町より恵比須町蓬萊町を経て東川町迄及び東川町より鶴岡町迄一哩三分五厘餘の間幅四尺の單線軌道を敷く

會社開業は明治三十年十二月十三日にして開業當時の線路は全線路の三分一、即ち會社を起點とし東川町蓬萊町を経て末廣町五十六番地現今の十字街迄千四十六間二尺、同十字街より末廣町大町辨天町角迄七百四十九間五尺五寸、又本社前より音羽町を経て鶴岡町地蔵

町を経末廣町十字街に達するもの八百三十三間三尺五寸をりし、此間區畫を定むること左の如し

第一區 (本社より東川小學校前に至る)

第二區 (東川小學校前より新藏前に至る)

第三區 (新藏前より末廣町十字街に至る)

第四區 (十字街より基坂に至る)

第五區 (基坂より辨天町角に至る)

之を本線と爲し支線は本社前より音羽町を経て末廣町十字街に至る迄を最初三區に類ちしが後二區に短縮したり、賃錢は每一區一錢五厘也

複線工事は明治三十一年五月に着手し辨天町角の線に接続して西濱町十九番地角より濱通

り仲濱町東濱町を経て末廣町十字街に達する線路、辨天町より十字街間ともに複線の工事を竣功し同月二十五日を以て開業す、即ち區畫を定むること左の如し

第六區 (辨天町角より仲濱町税關前に至る)

第七區 (税關前より末廣町十字街に至る)

第八區 (十字街より鶴岡町交番所前に至る)

第九區 (鶴岡町交番所前より本社に至る) 乗車賃は前の如く一區一錢五厘也

其後龜田村に達する線路の工事に着手し第二回到竣功せしが鶴岡町巡查派出所より若松町中央迄を一區とし、同所より海岸町巡查派出所迄を一區とし、同所より海岸町巡查派出所

所迄を一區とし、同所より海岸町中央迄を一區とし、同所より龜田村に至るを一區とし都合四區に分つ、乗車賃は矢張毎區一錢五厘也湯ノ川線は別項湯ノ川案内の中に就て見るべし

當時會社の使用する客車は二十五臺、馬匹九十七頭にして車掌取者各々三十三名、馬丁十名、工夫十名なり區内は發車午前七時半より午後十時迄二百回乃至二百二十回にして一時間十三臺乃至十五臺を發車す

●人情風俗

函館は諸國人の集合せしものなるが故に人情

不景氣は因習の奢侈をも餘程戒しめたらんが如く、勤儉貯蓄の風大分見ゆる様になりたり

の如きは至つて輕薄ならむと思ふもの無きにあらざ、されど新開地の人心として見を得べからざる質撲の人多く、又故郷を離れ他に寄る邊なきを以ての故か、人々親睦に交はり情命大いに暖かきものあるは喜ばしき事なり、只夫人人懐かしきが故に人を愛す、されど新住の土地として土地を愛するの念慮に缺くる所あるは是非もなし、又風俗を言へば一般に奢侈に傾むくが如し、何となれば素と一攫千金的の立身者によりて成れる兩館なれば、衣食ともに他國に比して驕りに長ずるは自然の勢ひなればなり、然れども追々年と共に永住の民も多く、墳墓を有する人も多くなりしが故に愛郷の念も次第に生ずべく、近年引續ての

東 濱 町

●有名なる商店の案内

時勢の變遷は人事の頻繁を加へ、朝に同業の競争あれば夕に新奇の開店あり新聞の廣告潮の如く告状の散布落葉に似て往々撰採に苦むは今日一般の有様なれば茲に案内の欄を設け函館區に在りて親切勉強の評判ある各種の商店を心付のまに信用ある所の人々のみを掲げたり故に若し信用缺乏を認る時は之を抹殺するに容ならざるべし

東 濱 町

○株式会社第三銀行函館支店

(寫眞版参照)

株式会社第三銀行は壯麗なる二層樓の建築物にして東濱町十九番地にあり其位置の適所なる株式会社百十三銀行と相對峙するが故に實に見事なる函館の價值を他に誇稱するに足る同行は明治九年十一月國立銀行條例に據り資本金貳拾萬圓を以て誕生す爾來發育と共に増資の必要を生じ明治十一年六月金拾萬圓を増加し金參拾萬圓と爲る同十五年七月第四十四國立銀行の業務を合併せるにより一躍して資本金百萬圓に増進し同二十九年十月國立銀行營業滿期に付き株主に屬する勘定の決済を遂ぐるに及び資本以外金八拾餘萬圓の利益を生じたるを以て之を各株主に分配し同時に資本金貳百萬圓に増加し國立銀行營業滿期處分

二八

法により同年十二月其資格を改め私立銀行と爲し株式会社第三銀行と改稱せり其翌三十年六月再び株式會社第八十二銀行の合併を行ひ則ち現今の資本金額金貳百四拾萬圓となりたるなり

同行は創業以來茲に至るまで歳を閱すること二十有五年其開資本金を増加すること已に十倍に達し其發育の健全なる多く見ざる所にして目下の取引銀行は全國二百四十餘箇所に亘れりと聞く

同行常支店員は皆な從來の經驗と熟練とを以て能く勉勵事に従ひ敏活に懇切に取扱ふため當港實業界に於ける信用頗る厚く隨て業務は日一日に隆盛の域に進めり

有名なる商店の案内

○ 旅 館

(寫眞版参照)

キト旅店は當港棧橋前にして四通八達真に便利の位置に在り同館は當港旅館中第一位に算へられ所謂上流貴紳士の定宿とする所なり客室清酒裝飾の器具能く四時の風好に適し三層樓上眼を放てば南部津輕の碧峯翠岳を眺望し脚下は巴港の灣中帆船林立するあり風光絶佳當港中其比を見ず旅客に對し懇切と正實とは同旅館主人宗澤茂七氏の内規とする處なり

○東洋堂高須商店

(寫眞版参照)

東洋堂高須商店は東濱町棧橋前に在り洋酒、

二九

東濱町

食料、罐詰、瓶詰、西洋菓子、鑑入麵麩、菓子掛物、西洋煙草各種、北海道産物類、其他珍品進物用品雜貨類を販賣す商號を「多」と云ふ

同店販賣の商品は各産地と特約を結び品質の精撰を勉むるが故に信用厚く販路は区内幾多の需用者は勿論遠く海外に輸出す同店が常に店頭雜踏を極め益々業務繁榮の域に進みつゝある所以のものは是れ他なし同店の位置天然の地勢函館樞要の地にありと雖も一は當店主高須長七郎氏の温厚にして實直一時の名利を欲せず品質を精良にし低廉勉強を本旨とせしに依るとの世評専らなり

○野・旅館

(寫眞版参照) 荻原豊次郎氏

東濱町棧橋前に在る三層樓の旅館にして其屋號を越後屋と云ふ其記號の「キトボ」は却て人口に膾炙する所なり壯麗なる三層樓は空氣の流通よろしく客室の配置宜しきを得其取扱ひ頗る丁寧なるが故に旅客常に多く客筋は津輕南部越後東京大阪神戸等の商業家尤も多し其他横濱馬關名古屋地方より年々當地に來る商人の此家に投ずる者尠なからず誠に恰好の旅店なりとす當館主荻原豊次郎氏は能く世務に通じ尤も機敏に尤も親切に自ら其業に當り爲めに世に信用せらる先づ當港最上の内に數ふるも敢て過

名なる商店なり

○植田商店

植田商店は當區有名なる昆布茶昆布菓子細工昆布の製造元祖なり東濱町通り二十間坂西へ入る(丸米印旅店)の向にあり同店はよく昆布を製し種々なる菓子を製し内地への御土産ものに至極便利なる箱詰あり特

に東宮殿下御婚儀式の當日公園地に於て函館區民奉祝の節には同店よりは昆布細工にて菊童子菊花を遊戯せし處を作り菊壽をさくげたまつりたる昆布に基き工風を凝し原料佳味な

稱にあらざるを信す

○商店

(海老根千代之助氏)

丸福一商店は東濱町にあり雜貨店の傍ら雇人口入の業を兼ね信用のある店なり

因に誌す 當主海老根氏は當港に於けるおいらんまめの元祖なりとさきく

○森龜牛肉店

(山田龜吉氏)

函館にて森龜といへは誰れ知らんものはなし同店は東濱町四十五番地に在り牛肉を販賣し傍ら英獨等の各國海軍食料品を取次ぎ区内有

有名なる商店の案内

東 濱 町

る昆布を利用一菓を撰製し萬壽無疆なる紀念
菊花を模造したるを以て「壽の司」と名付け賣
出したるは斯業の熱心なるを賞するに足るそ
の時の俳句に
天地のあらんかき利を菊磨る

○内山商店

(内山寛吉氏)

内山商店は東濱町五十六番地に在り商號を
「金一」と云ふ近來の開業なれども確實なるを
以て日々華客増加し隆盛に赴く海陸物産を柏
肥料委託買の商店なり

○近藤商店

(葛原辰彦氏)

近藤商店は東濱町四十八番地に在り商號を
「一」と云ふ此附近に於て稀に見る所の雜貨店
にして販賣の品種は舉て數ふべからず先づ其
重なるものは和洋酒、和洋砂糖、煙草類、紙
類、石油、蠟燭、罐詰、瓶詰等にして其他日
用必需の物品は殆ど取扱はざるなき商店にし
て卸賣と小賣を兼ね
同店主は確實にして勉強なるは世の知る處な
るが故に華客の信用を得日に繁昌を來たし便
利にして流行する商店なり

○庄野商店

庄野商店は東濱町五十六番地に在り商號は
「角八」なり海陸物産、食鹽の間屋なり産物の
輸出物は重に京濱鹽釜青森秋田酒田等に華客
を有す食鹽は区内の老舗を凌ぎ鹽問屋の角八
として其名高く確實なる商店なり

○因 旅館

(樋口重親氏)

角大旅館は屋號を武藏屋と稱呼し東濱町棧橋
前にある三層樓の旅館なり
家は三層樓の壯麗なる建築にして巴港に面し
客室の構造宜しきを得器具等の清潔なるは常
に來泊する人士の稱賛する所なり殊に其待遇

○能登川第一支店

(葛原辰彦氏)

能登川第一支店は東濱町三十四番地にある宏
壯なる二階造の建物なり
同店の營業等は西川町本店に詳細なる説明を
爲したるものなれば茲に其繁を省く事とせり

○平田濱店

同店は末廣町金二の支店にして東濱町十一番
地にあり鐵網等を販賣する商店にして商號は
金二なり

有名なる商店の案内

東 濱 町

頗る懇切丁寧にして萬事如才なきが故に來客常に満ち、偶々旅客の同店に宿を求むる者時に或は謝絶せらるゝが如きの盛況なりと云ふ。其客筋は重に官吏、議員、銀行會社連等の上等客に多く内地各府縣に亘る紳士紳商等の大半は毎時此家の常得意とする所なり。函館の旅館と謂へば一口に待遇の悪きを批難する者ありと雖も同店の如きは一點の非難を加ふべき處なき好旅館として之を評するを得べく上等客の來泊には尤も適當にして先づ當港最上の内に數ふべし。

○西島屋洋物店

西島屋洋物店は東濱町十二番地に在り洋酒食料品食器類各種卸小賣及洋小間物洋服裁縫を業とし、而して其商品は洋酒食料品と洋服裁縫とを論せず洋小間物類の各種に至る迄原料の仕入に抜目なくして時々の流行新柄に注意し能く來客の萬足する様勉むる而已ならず直段の廉なるは第一に顧客の喜ぶ所にして商賣の繁昌なること斯の如く又得意の信用を有する事斯の如きは常に誠實と勉強とを以て業務に當るに基づくべしと雖も要するに同店の如きは能く商賣の極意を得たるものと云ふべし。

仲 濱 町

○常野度量衡店

(寫眞版参照)

常野度量衡店は仲濱町中央にあり店舗の構へ壯麗にして巨大なる一見以て老舗たるを知るべし。

同店は度量器製作を業とし専ら度量器製造修覆を爲し其販賣を兼ね同店は品質の佳良製作の堅牢を以て世人に信用を博し内國勸業博覽會に於ても褒状を賜れる程なり。爾來時世の變遷に隨て益々改善の途を講じたるを以て業務の進歩は一頃地を出し現今区内

有名なる商店の案内

幾多の同業者を生ぜしと雖も同店に匹敵する者を見出す能はず。

近來に至りて殊に大に規模を擴張し以て其製作販賣の區域を増殖せしめんことを圖り更に工場を設け熱練なる職工を使役して盛に其製作に従事しつゝあり。

度量衡器の製作が正確なる可らざるは更に多辯を要せず度量衡器の検査法の嚴格緻密なる固より其所なりと雖も稍もすれば粗製濫造の弊を生じ易き虞あるに拘らず同店は勉て完全無缺の精製品を出すを以て其需用頗る多く全國度量衡器製作店中に在ても常に屈指の中に在りと云ふ。

仲 濱 町

○北海道共同株式會社

同會社は仲濱町十七番地にあり營業の目的は米穀海産物受託買賣にして傍ら札幌麥酒株式會社醸造のラガ麥酒及黒麥酒大販賣代理店、北海道セメント株式會社製造のホルトラン、セメント及北海道炭礦鐵道株式會社採掘の石炭兩館一手販賣を爲す
同會社は基礎鞏固にして敏活と熟練とを以て鍛へ上げたる社員を有するが故に業務益々擴張し隆盛の域に進み信用尙厚きを加ふるに至れり

西 濱 町

○淺野石油部函館出張所

石油直輸入販賣を以て有名なるは西濱町十三番地淺野石油部函館出張所なりとす本店は横濱にあり店員が客に對する懇切と鄭重とを旨とするが故に當港の信用最も厚し其石油は扇印タンク扇印日本石油等なりとす

有名なる商店の案内

幸町

○山村鐵工場

(寫眞版参照)

山村鐵工場は諸器械製造を以て有名なり幸町にありて創業以來實に五十有餘年の久しきを以て諸器械製造に従事し當港著名の鐵工場なり
當主の父故山村久兵衛氏弘化元年に當區神明町に(今の黒町)始めて鐵工場を開く氏よく諸器械製造の術に長ずるを以て頗る聲名を博す爾後今の處に移る當代主友三郎氏は父の志を襲ぎ業務を擴張し自ら業務に従事し職工

監督の任にも當り以て熟練なる職工を使役するが故に製品の堅牢なる價格の低廉なるは同場の特長として重て世に信用を博するに至れり而して該製造所の位置海岸に近く船具諸器械の製造修繕に好適所なるを以て同場の顧客の多きこと他に比肩するものなし實に本港同業者中の巨擘と稱するも敢て過言にあらざるを信ず盛なりと云ふべし

辨天町

○國領藥舖

(寫眞版参照)
國領平七氏

國領藥舖は辨天町より彌生坂に向つて右角にあり軒頭高く燦爛たる金看板を掲げ最も古き内外國賣藥及化粧品問屋なることは人々の知る處にして尤も信用ある顧客の多き老舗なりとす商號は全に在り
凡そ内外國各地諸名家諸藥店に於て調劑發賣する賣藥類及全國各地に於て製出する處の有名なる化粧品類は其數幾百なるを知らずと雖も同店は汎く之を取次ぎ有効顯著の種類は完

有名なる商店の案内

備せざるなし故に本道各地の賣藥店は皆同舖より供給販賣するを以て店頭何時も顧客の絶ゆることなし

而して同舖の重なる營業品を擧ぐれば

○有名なる内外各國の賣藥

○内外化粧品各種

○和洋藥品

右は何れも同舖が最も意を用ひて營業する所にして其傍ら質商及貸倉業を爲す
質店は彌生坂の方に在り貸倉は本店の向にあり倉庫の堅牢なる地位の便利なると同店の手堅くして懇切丁寧なることは世の知る處なるが故に信用最も厚く二者共に隆盛なり

辨天町

○◎そばや

(寫眞版奉照)
遠藤由松氏

九南そばやは辨天町六十六番地にある有名なそばやなり御膳生蕎麥の傍ら夏はピヤホルを開き冬は柳川小田巻むしの得意の料理を爲す等顧客の便利を計るを以て世の信用を博す其待遇の親切と斬新美味なるは同亭の特長なりとの高評にて日々混雑を極む

○堀合羽店

(堀合平氏)

堀合羽店は辨天町六十八番地に在り多年合羽を製造し入羽の合羽として遠近より賞揚せらる入羽は商號なり
同店製造の和洋ゴム引、雨合羽等は能く持久

○北海新聞社

北海新聞社は明治二十二年五月函館區有志者數十名相圖り資本金として壹萬圓を醸出し設立したる者なり當時社名を巴港社と稱し「北海」なる題號の新聞を發行せり、後合資會社巴港社と稱せしも僅にして解散し更に工藤彌兵衛之を引受けたるも「北海」新聞は依然發行

内 案 簡 函

を繼續せり爾來種々の變遷ありし後明治三十一年社名を北海新聞社と改め同時に題號を「北海新聞」と更へ以後今日まで繼續せり同新聞の主義は不偏不黨にして全道中有力なる新聞と稱せらる同社は辨天町にして現今廣谷征氏主幹として社務を支配し居れり

○商業新報社

(寫眞版奉照)

商業新報社は今を距る事九年以前(明治二十五年)中井三五七氏の創立に係るもの、吾函館に於ける實業界の羅針盤として新紙を發行し北海商業新報と名づく最初は毎週發行夫より隔日となり、今は保證金を納付したる新聞

有名なる商店の案内

紙の性格を具へたる日刊實業的新聞なり、其商況は迅速確實にして獨立獨歩、偏せず黨せず、大手筋の爲めに記事を曲庇するなく、斷々乎として函館實業界の眞況を描寫するを以て、實業家の信用を博す、左れば其印刷部數は頗る多く京阪其他の都市よりは絶えず廣告の依頼あるにても推知するに足るべく社運益々隆盛なり

同社は新聞事業の外活版印刷の業を兼ね其印刷の鮮明精巧なる價格の低廉なるを以て各商店に信用を得日増顧客増加の優勢を呈示す同社は辨天町二十四番地にあり現時の主幹は中井多吉氏なり

○原商店

(寫眞版参照)

原商店は辨天町六十六番地にあり牛鶏肉の卸小賣を爲し傍ら牛なべ鳥なべの輕便なる料理を兼業す

當店主原貞太郎氏は斯業の熱心家にして勉強なる同業者中比肩するものなく世の信用を博するも其處なるべく東に丸み西に丸原との高評を受け日々雜踏を極めり

大町

○常野茶店

(寫眞版参照)
(常野總本店)

常野茶店は函館の老舗として夙に江湖に知られ其の販賣高優に他店を壓倒する有様なり而して販賣品の製産地は本邦に於て有名なる山城宇治なり今や同地に出張店を置き専ら製造に従事し粗造のなき様年々本店より店主若くは店員を派して監督せしめ大に精撰する所あらしめたれば顧客の信用頗に厚きを加へ販路の及ぶ所千島根室等本道一帯にして小賣營業者へ卸賣する高も亦鮮少ならず嘗て内外國勸

有名なる商店の案内

○常野紙店

(寫眞版参照)
(常野兵衛氏)

常野紙店は大町の中央にある壯麗なる三層樓にして商號は「○」と云ふ

業覽博會に出品し賞牌賞狀も十數種の多きに至り、紅茶は本土及び臺灣産磚茶烏紅の各種にて販賣高近年また多額に上れりと云ふ尙ほ各地重なる販賣品は●山城宇治銘茶各種●諸國名産銘茶器類にして共に卸賣小賣を兼ね本店所在 函館區大町七番地店主は常野與兵衛氏商號は「○印」と云ふ
支店 惠比壽町角にて本店同様の銘茶及び茶器を販賣す



同店は内外國製紙販賣、簿類製造販賣及活版印刷を營業と爲すを以て有名なる老舗にして商號の「せに一」は却て人口に膾炙する處なり

同店製造の各種帳簿は其紙質の堅牢にして價の低廉なると體裁に美を盡す處は同店の特長にして夙に世上に好評を博する處なり又各紙類は近年美術工藝の進歩と共に換紙引手釘、隱綴子、繪絹、金銀箔、總て室内裝飾品の如き漸次面目を新にし人々競ふて裝飾の美を先するの今日意匠の嶄新精巧を旨とし諸品の撰擇は其最も必要とする所なるを以て同店は夙に此點に着眼し仕入は殊に時好に投じ實用に適する品を撰み勉て薄利を主として其販賣に怠ら

ざりしが故に今や換紙其他の附屬品は概ね同店より購買するに至る就中紙類は精製佳良の品質を撰み印刷用紙諸紙類共同業中の巨擘として之を江湖に紹介するは強ち記者が誇大の稱揚にも非るべし

- 内外國製紙販賣
- 諸帳簿類
- 換紙類
- 各種表具用品一式
- 京都鳩居堂製筆墨類
- 印刷局製印肉

以上は單に其重なるものを擧げたる而已にして其他諸紙類の種別に至ては枚舉するに遑あらず
又同店活版部は規模大にして輪轉印刷機手引印刷機數臺を備へ熟練なる職工を使役して其業に當らしむる爲め印刷の精巧にして鮮明な

て其名聲遠近に普し

○網塚藥舖

(寫眞版參照)

網塚藥舖は大町十番地、十八番地にあり營業は内外各國藥種問屋にして商號を「三」と稱呼し本港著名の藥舖なり

同舖は内外諸國の藥品は悉く完備して餘す所なし故に本港内外藥品の業にあるもの其數數多なりと雖も皆同舖より(卸部は隣店十八番地なり)供給販賣するが故に顧客多く日夕殆ど間斷なく繁昌を極め其賣高の如きは優に全道に匹敵するものなり
同舖は内科、外科、眼科、齒科等必要の諸器

ることは最も長所にして區内幾多の同業ありと雖も比肩すべきものなし

因に誌す 同店は惠比須町十五番地に支店を設け紙類等を販賣し華客の便宜を計れり

○壽全堂藥舖

同店は大町三十五番地にあり内外各國藥種を販賣す
同舖は醫藥用品は勿論醫療器械、工業用藥、内外有名賣藥の卸小賣を非常に勉強販賣するを以て顧客の信用を博し特に同店主は藥劑士なるを以て眞實に低價に調劑し且究民患者に對しては施藥すること數々なりとす之に依り

大 町

械其他醫療附屬品として消毒材料品種々ガ
ゼー、脱脂綿、海綿、氷嚢、乳呑器等に至る
迄何れも最新の發明に係る精良無比の舶來品
をのみ取扱ひ各専門諸家の需用に應ぜり
同舖は能く仕入に注意し薄利を旨とし専心誠
實以て客に接するが故に本港多數の同業者中
に在て毎に優勢を占め商況の隆盛を來れず所
以のもの偶然に非るなり

○ 松居吳服店

(寫眞版参照)

大町に二層樓の大厦なる土藏見世はと人口に
上り人目を惹きつゝあるは是れ即ち合名會社
松居吳服店にして商號は「金久」と云ふ

四六

同店營業の種目を列擧すれば左の如し

吳服太物洋反物類

露西亞更紗直輸入販賣

助六裏地北海道發賣元

村井カタン絲特約北海道一手販賣

常盤織製造發賣元

吳服太物洋反物類は各産地より輸入し物品の
豊富なる珍奇の種類多く能く時勢に適せる品
質を精撰し確實にして價格は極て廉價に正札
を付し販賣する當港第一流の老舖なりとす

露西亞本國より直輸入する同國更紗は區内顧
客の信用厚く販路益々擴張せり又當港の各
商店も同店よりこれを仰ぐ
助六裏地及村井カタン絲は各製造本舖と特約

を結び本道の各地へ之を頒つ
同店製造の常盤織は品質堅牢變色なきため需
用者特に多し

當港一般の商況は日に月に隆々として大に舊
時の面目を改めしと共に各自の競争は勢の免
れざる處なるを以て同店の如きは能く仕入元
に注意し薄利を旨とし専心誠實を以て客に接
するが故に此の區内多數の同業者中に在て毎
に優勢を占め日々雜踏を極めつゝあるなり

○ 北海道機械網株式會社

(寫眞版参照)

北海道機械網株式會社は大町基坂の右角にあ

有名なる商店の案内

四七

り同會社は特許網編成機を以て漁網を製造し
て之を販賣し其他漁具一切の販賣及販賣の委
托を受けるを以て目的とす
同會社の製品は品質を精撰して實利實益を主
と爲し價格を低廉に販賣して効用の普及を圖
るため本道各地の漁業家及商店は皆同會社よ
り供給す
故に同會社の營業は需用供給の兩間に立ちて
其聯絡を親密ならしむ其經營苦心なるは實に
豫想外にありと蓋し同社の如きは營利以外に
於て尤も商業に忠實なる者と稱するも不可な
きなり而して其資本金は拾五萬圓にして東京
市本所區柳原町三丁目十九番地に支店を設け
益業務の擴張を圖れり其重なる役員は左の如

取締役社長 笹野榮吉
 常務取締役 末富孝治郎
 取締役 廣谷源治
 同 辻 快三
 同 監査役 内野高吉
 同 内山吉太

○利旭吳服店

(旭熊太郎氏)

金、旭吳服店は大町三十四番地に在り商號は「金ヤ」なり
 同店は吳服太物類を販賣するを以て營業と爲し年來取引の確實なるを業務に勉強なるを以

て信用を博し益々商運の隆盛を見るに至れる
 は實に同店の爲に賀すべきなり

○金關商店

關商店は大町三十五番地に在り商號「山タ」と稱し左の商品を販賣す

各國産陶磁器類和洋木箸箸箱類仙臺名産埋木細工物類

同店は陶磁器等の産地なる美濃、名古屋、加賀、伊萬里、四日市、石見、淡路、錦水、出雲、京都、肥前、會津、相馬、東京、明石、信樂、三河、常陸等の各商店と特約を結ぶ埋木細工物に對しても仙臺より直ちに輸入す

其販路に至りては本道各地は勿論青森南部秋田若くは盛領浦縣斯德サガレンカムサツカ等に輸出す同店は斯く販路を擴張せる所以のものは商品の豊富なる正直勉強とを以て稱せらる尤も信用ある陶磁器店なればなり

○澤口庵

澤口庵は大町五番地にありそばやを以て有名なり

○菊泉堂奥山商店

大町二十七番地に在り「三」は商號なり酒類醬

有名なる商店の案内

油味噌和洋酒瓶詰罐詰類を販賣し同町日本長酒店と並列して酒舖中に羽翼を張り其販賣高優に醸造家を凌駕し傍觀者の我々共迄にも其勉強なるを感ぜしむ

○八藤井支店

藤井支店は八番地に在り商號は「山形」にして各國陶磁器類を各産地より直輸入販賣し尤も信用ある商店なり其種類は左の如し

- 美濃焼 尾張焼 萬古焼 會津焼
- 信樂焼 肥前焼 京都焼 淡路焼
- 相馬焼 九谷焼

其他諸國銘産陶磁器類一切

大町

○三藤井商店

藤井商店は大町にあり海陸物産見布問屋にして通稱(びん利)と商號を「金三」と稱呼し有名な商店なり

末 廣 町

○株式会社百十三銀行(舊廣版支店)

株式会社百十三銀行は末廣町十四番地に設置せらる位置は本港樞要の地にして東濱町より八幡坂に向つて右側にあり前掲寫眞版の示す如し抑も同行設立の濫觴たるや實に明治十一年七月國立銀行條例に基き主務省の認許を得て同十二年一月第百十三國立銀行として一般銀行事業を經營するにあり而して三十年七月國立銀行營業滿期前特別處分法に依り會社登記の變更を受け商號を株式会社百十三銀行

有名なる商店の案内

と改稱し爾來營業を繼承し支店は東京及小樽に設置し其他三府を初め各地に爲替取引の約定店あり専ら顧客の便利を計れり

資本金高は設立の當初拾五萬圓なりしを十三年一月に至り五萬圓を増資し貳拾萬圓とせしが漸次業務の擴張に連れ三十年七月參拾萬圓及三十三年五月五拾萬圓を増加し現在資本金壹百萬圓なり
重役は左の諸氏にして何れも本港有力なる知名の人士任に當り能く其職責を盡し行員亦熱心と勉強とを以て事務に軌掌し基礎倍々鞏固に業務益々盛大に赴き特り本道第一位の銀行に背かざるのみならず又全國に於ける優勢なる銀行として算せらるゝに至れり

- 取締役頭取 田中正右衛門
- 取締役 杉浦嘉七
- 取締役 渡邊熊四郎
- 取締役 相馬哲平
- 取締役 鈴木重恒
- 監査役 廣谷源治
- 監査役 遠藤吉平
- 監査役 小川幸兵衛

○今井合名會社函館支店

(寫眞版参照)

今井合名會社函館支店は末廣町南部坂の右角にある壯麗なる二層樓の土藏造りなりとす
 同店は商號を「井」と稱呼し呉服太物類洋物類

の卸小賣營業を爲す

同店は誠實を勉強を以て夙に江湖の信用を博し商品の饒多、品質の精撰、價格の低廉等間然する所なく誠に函館の老舗現今の勉強店、流行店として他に遜色なきは蓋し亦た謂れなきには非るなり
 呉服太物類の如き近來何れも粗製濫造の弊を生じ各地特産の製品を模造して巧に人目を誑かんとする奸商輩出するが故に商品の仕入は注意を要するを以て同店は大に意を此點に注ぎ諸國有名産地の織元と特約を結びたる外特に東京大阪に仕入店を置き専務其事に當らしめ良き品を安く買るといふの方針を取りつゝあるなり

故に同店は羽二重、縮緬、二樂、七子、風通、米澤、糸織、銘仙、紬、太織の各種及帶地は丸帯、縮珍、博多、唐織子、南京織子、織姫、縹子品々甲斐絹、天鷲絨より太物類は實用向きの上等品一切并に洋織物類に至ては絹、ル、和洋フランネル、唐縮緬、金巾類等の各種にして其外羽織ひも打紐等の糸組物真綿等日用必需の織物類は一として備らざるなく特に婚禮支度は特別勉強する所なり
 又洋物は帽子類、洋傘類、靴類、手提靴、抱抱、旅行用袍類、シャツ、手袋、毛糸編物類、和洋服外套、婦人用被布、廻し合羽類、肩掛、膝掛、毛布類、戎氈、花ラセン、敷物類、洋服附屬品其他各種に對する舶來品は總て商館よ

有名なる商店の案内

り直取引を爲す同店は總て商機に敏にして能く世の流行に着眼し時好に遅れざる新柄新意匠の品質を賣出すは同店の特長なりとす
 而して同店は例年一月二日に賣出すを以て常例とし同日の光景は實に一奇觀にして末廣町の往還は一時往來を杜絶せらるゝに至り老幼婦女の輩は肩摩殺撃の間に呻吟しつゝ終に空しく歸る者あるに至る(夏期冬期の賣出しも同様なりと知るべし)

故を以て同店は何時も店内恰も人を以て埋むるが如く其雜踏人目を驚かす位にして敏活と熟練とを以て鍛へ上げたる店員も時に或は應接に追あらざる景況なり
 同店はよく來客に對して親切丁寧を専らとし

末廣町
五〇
○濱口支店
（寫眞版参照）

濱口支店は末廣町十二番地に在り營業は醬油、酒類、雜貨、肥料、雜穀等にして商號を「令」と云ふ同支店は規模大にして本店は千葉縣銚子町濱口儀兵衛氏より東京日本橋區北新堀及小樽南濱町六丁目各出張所を設く同店の上山サ最上醬油は有功壹等賞金牌、宮内省御用等の聲望に背かず風味よく需用者多

○濱口支店

（寫眞版参照）

し其他萬上味淋、大印味、噲馨、一世界、一銘酒共に風味醇良なるを以て常港幾分の需用者は勿論同業者中にも歡迎せられ販路益擴し海陸物産に於ける同店の聲名は最も高く時々相場を變動せしむる事あり尤物の優として上山サの商號は却て人口に膾炙する處なり

○梓樋口吳服店

（寫眞版参照）

同店は通稱を井桁と唱ひ區内の樞要地たる末廣町十字街に在り多年吳服、太物、洋反物類を販賣し來り區内屈指の老舖なり同店は卸部小賣部を分設し卸部は十字街より惠比須町へ入りたる方にあり區内は勿論遠近

○新田小間物店

各地の商店へ卸賣を爲す小賣部は即ち十字街角なり其盛大なる區内比肩する者なしと聞く同店に陳列場あり最新なる流行品は各店に先鞭陳列して需用者の便利を圖る蓋し函館に於ける吳服、太物商の陳列場は同店を以て嚆矢とす其華客に對する懇切と鄭重を旨とするが故に店頭日々雜踏し殊に例年賣出しの際は警官の保護を受けつゝあるの光景を呈せり殊に同店の特色たる各生産地と特約を結び其産出に係る物品は各々充分なる調査を遂げ最も品質善良にして染色堅牢なる總て時好に遅れざる珍柄の撰擇に意を用ひ極めて廉價に正札販賣の主意なれば隨て繁榮を招くに至れり

有名なる商店の案内

末廣町第三坂の向角にありて恰も當港の中央を占め萬國小間物類卸小賣商として其右に出づるものなし金銀、玳瑁、珊瑚、玉類、籠甲、櫛笄、金銀寶石、入指、環、新形曲入香油、香水、石鹼、齒磨、化粧品等、靴具、一切樂器類、新形囊物類、羽織、紐類、貴重高價の物品を店內に充たして殆ど餘地なければ一般に凡そ貴重の小間物類は同店に就て購求すべきものとし心得居る有様となり店頭朝より賑ひて夜の十一時頃迄顧客を絶たず令閨令嬖、藝妓、花魁、下婢に至る迄美醜打交はりて年中時ならぬ花の山を築く程にて婚禮必要なる一切の化粧品の如き

末廣町

は殆んど同店の専賣に歸せり又卸賣に至りても頗る手積ぐ當港の小間物商店は勿論釧路根室網尻室蘭小樽等に亘りて普く取引あり總じて斯の如き盛況なれば東京大阪問屋筋の信用厚く競ふて特約販賣店たらんことを望み新しき流行ものも格安に差向くれば同店の繁盛は進みて止まず若夫同店の特色を知らんと欲せば物品の確實と代價の低廉と一厘と雖も掛引することなきと貴重高價の物品を多く貯ふることに依りて明なり其商號は「甲」と稱呼して其名高し

五六

○町小川商店

(高根坂參照)

小川商店は末廣町の中央なる縁坂(俗に甘間坂と云ふ)の左角屋上と軒頭とを間はす燦爛目を奪ふ如き多數の金字入看板を掲げたるもの是れなり
同店は商號を「町」と稱呼し其名高し其營業種目は靴、靴、馬具、毛判、製革、毛皮、革細工一式なり
同店は當港は勿論全道革商の元祖にして同店製造に係るものは堅牢なるを精撰し實用向一方の製品を備ふるが故に需用の増加と共に多額の取引あり加之廉價と勉強を以て多年得意先の信用を博したれば何時も取引の繁忙なる

商店にして本港著名なる老舗なり

因に誌す 同店は靴馬具の本道に於ける製作者の元祖として毛判の發明者として特に賞揚す

又香羽町製革所なるもの明治十二年開拓使より拂受け今尚ほ盛大に行ひつゝあり斯業の熱心家として茲に紹介す

○重松支店

重松支店は末廣町十四番地に在り商號は「丸キ」にして和洋鐵物卸小賣業を營む本店は播磨國三木町ノ内福井町に在り
同店の重なる商品は前挽鋸手曲鋸大工道具銅

有名なる商店の案内

眞鍮器具鐵打及物諸鑄物農場用具漁場用具土工用具洋鐵丸釘其他金物一式なり
同店は明治十八年創立以來時勢の進歩に伴ひ組織の上に改革を行ひ専ら卸賣に重きを置き舶來品は神戸横濱の商館と特約を結び本邦製産物に對しては本店所在地及全國樞要の地に製造工場並に仕入店を設け品質を撰擇し實利主義を旨とし勉めて低廉に販賣するの方策を採れり

建築土木、工業、漁業、礦業、農業等の用品及銅眞鍮鑄鐵製鐵打物其他金物中に於て新規形替又は緊急を要する品物の調達は能く期限を誤らぬ様需用者の便利を計れり
故に目を追ふて顧客増加し販路を本道各地及

五七

奥羽地方にまで及ぼし信用の度を高め各地よりの注文非常に多く日夕殆んど間断なきの姿勢を呈し本港加指の金物店なり

因に誌す 同店は明治二十五年八月北海道物産共進會に自製の手曲鋸を出品せしに製作良好真に使用に適せりとの旨を以て有功褒状を授與せられたり

○里谷酒店

(谷多郎氏)

谷酒店は末廣町三番地にあり商號「樽二」と呼ぶ銘酒味淋洋酒、雜詰其他雜貨品を販賣し本店は京都府伏見町に在り同店の銘酒「樽二」千秋は酒質の醇良なる

其風味の高尙なるため世の好酒家の賞賛を受け本道は勿論遠く臺灣琉球に輸出す又味淋酒の如きは本港内に於て優勢を占め居る故需用者同店より之れを需むるも多し其他洋酒、雜詰、雜貨品に至るまで品質を撰擇し低廉勉強を旨とする故に華客次第に増加し日々繁雜を極む其賣高優に本港醸造家を壓し區内著者なる酒舖なり

○孟屋

孟屋は末廣町龜田屋小路にあり木杯瀬戸孟の彩色及陶器名刺の焼付を營業とす當港開けてより今日迄同業を爲す者七八軒の

多きに上れる事ありと雖も何れも失敗又は轉業を爲して其跡を止めず獨り龜田屋小路に於て之れを見るのみ

主人早川勇治氏は仙臺の人にして彩色焼付の術に長じ意匠著色共に毫も間然する處なく其精巧驚くべきものあるを以て年來頗る名聲を博せり特に氏は百折不撓の忍耐力を有す創業以來實に十有五年の久しきを一貫して斯業を守り遂に孟屋なる名稱は人口に膾炙する處となり信用益々堅く其範圍は本道各地に普及して自然北海全道孟屋の元祖と賞揚せらるるに至る賀すべき事なり

然れば本道各地の商店料理店等の進物の如きは二に同店に依るものゝ如し盛なる哉

有名なる商店の案内

○内山油店

内山油店は巴香堂と號し末廣町龜田屋小路に在り其營業は燭附、透油、香油、香水を製造し諸油蠟燭化粧品等を販賣す商號の「井」は却て人口に膾炙する處なり同店製造に係ることも、ぼばき、千々勢の燭附巴香油、サラリ香油、梅花香油等殊に巴の花香油及香水は其名最も高し

同店は誠實と勉強とを以て夙に江湖の信用を博し品質の精撰價格の低廉等間然する所なく誠に本港現今の勉強店、流行店として他に比肩すべき商店あらざるなり故に日々の賣出多く製造に忙しと聞く

因に記す 前掲寫眞版の示す處は巴の花の

香油香水賣出の際に少年音楽隊を組織し區内隈なく巴の花の歌を唱へせしめたる時の光景なり今兒童の記憶する處となり至る處其歌をきく随分面白し左に紹介す

巴の花の歌

開け行く世の人の道 進むを遮るる閑はなし 發明品の應用と 製造品の改良は 日を追ひ月を重ねつゝ 目出度御世に 進みなり さてぞ巴の港なる 龜田屋小路に名を得たる 巴香堂よりうりだせし 巴の花と名づけたる 上等香油香水は 理學の實驗應用し 經驗茲に年を経て 原料を撰み精製し 芳香優美高尚に 品の割合直が安す 其効能に至つては

末廣町

六〇

ぬけ毛を止て赤き毛も 墨く鳥の濡羽色 薄きを濃くし癖直し 逆上を下げてふけを止め 悪臭忽ち除かれて 蘭麝の香馥郁に 冷しき風のまにくも 香を送る心地よき 彼の恐るべきはげ病 蕪海坊主も何のその 巴の花の特効にて 未發を防ぎ衛生上 効能あまたの品なれば 男女のけじめなく 巴の花を召し給へ 御化粧向に製したる 巴の水の高評は 夏の暑さにあせしらず 巴の雪と同様に 函館山の峯高く 大森濱の果遠く 店の信用諸共に 巴の花の評判は 北は千島の果しより 南は琉球臺灣の 遠きに迄も香ばしく 外國までも及ぼさん さあ

奥様も嬢様も 雅かなる殿方も 巴の花の香油を 巴の花の香水を 召して一きは華やかに なり遊ばして一層の高き評を希ふ 高き評を希ふ

森三星屋

(渡邊源太郎氏)

三星屋は末廣町十字街の邊りに在り三星屋は屋號森は商號にして當港著名の老舗なり 同店は石油洋糖小麥粉珍柄敷物類を販賣す 同店販賣の石油、洋糖小麥粉類は重にパウル社と特約を結び品質の精確なるものゝみを直取引を爲し直に當港の菓子商及仲買人に譲く

有名なる商店の案内

其數量の多大なるは當港の巨擘なるべし 近時敷物類の流行が頻繁なる遷變を爲すに伴ひて能く各人の嗜好に適し又其流行に遅れざるに注意するは殊に三星屋商店の特長とする處にして總ての敷物類は珍奇珍柄を揃へて店に充滿し其豊富なるは當港に於て比肩する商店なし

同店は當港著名の老舗に耻ぢず業務の盛大なる、取引先の廣大なる、商品の饒多にして品質の精撰なる、其價格の低廉なる、己に高評の存するあり茲に多辯を要せざるなり特に天然好地位は日一日と隆盛の域に進みたり

六一

魁文舎

本店は末廣町八番地(元第三銀行の跡)に在り北海道に於ける最舊の書肆にして和漢洋の書籍新刊諸雜誌及教科書學校用品を販賣す當今全國に於て刊行する書冊は教育に政治に法律に文學に醫學に實業に其他各專門の書籍實に汗牛充棟も曾ならずと雖も他店に率先して之を輸入し非常の熱心と勉強を以て廉價に販賣す

株式會社函館銀行は末廣町二番地に在り明治二十九年八月の創立にして資本金五拾萬圓積立金五萬貳百圓(明治三十四年七月報告に依る)營業課目は普通貸付金當座貸越金定期預金當座預金別口預金全國爲替手形割引代金取立等なりとす

株式會社函館銀行

(寫眞版参照)

又賣藥部の設置あり諸大家の良藥を販賣せり同店は流石本港巨擘の渡邊熊四郎氏の統轄なるを以て店則の整肅なるは常に他の模範となり

同行は當地銀行間に於ては最も新く然れども同行の特色として輕舉妄動猥りに外觀の壯大を尙はず若々として收利の確實なるを主とし其基礎の鞏固正確なること銀行間に於て巋然として一頭地を抽づる者の如し爲替の如き全國樞要の地は取引の設めらざるなく特に手形

割引の如き勉めて需用の融通を辨じ當港商人の如きは殆ど同行を以て融通の機關と爲す者の如しと云ふ役員氏名左の如し

- 頭取 廣谷源治
- 取締役 平出喜三郎
- 同 辻快三
- 同 金澤彦作
- 同 西出孫右衛門
- 同 齋藤又右衛門
- 同 久保彦助
- 同 小野秀治郎

列齋藤吳服店

(寫眞版参照)

齋藤吳服店は末廣町四十九番地(永國橋)にあ

有名なる商店の案内

り其位置は本港中樞の地にして四通八達之處なるを以て顧客の出入終日其跡を絶たず商號は金々なり其營業品の重なる種類を列舉すれば

- 絹織物類各種
- 京都西陣織物類
- 桐生足利八王子織物類
- 木綿織物類各種
- 和洋フランクナル類各種
- 絹絲組物類各種
- 仕立物及蚊張類各種
- 自設工場特製品各種

等にして明治十六年より東京下谷區に仕入店を設置して精良優美の流行品を蒐集に勉め又

末廣町

同市本所區に機場並に染工場を設けて世間無比の精良品を製造し就中羽子織の如きは博覽會共進會等にて數度の有功賞を得品質の佳良れる夙に購客の賞賛を博し名聲特に高く販賣の數隨て頗る夥し其他各産地に特約店も亦尠からず營業の方針は誠實を旨とし廉價を以て數をコナス的の主義なれば日に月に商運隆盛に赴き實に當區に於ける流行店として本港四大呉服店として賞揚するに至る盛なりと云ふべし

○鈴木辨藏商店

鈴木辨藏商店は末廣町八十五番地第三坂左角

にあり商號は金長(長は草書にて用ふ)營業種類は

綿絲、綿網、北海道製麻會社製漁網、粉澁、岩絲、配繩、越後網、水澤網、マニラロープ並に麻ロープ、櫻根繩、柿澁、玉澁、

以上の諸類なり

主人鈴木辨藏氏は陸中國山の目の人なり當港に來つて此業を開く失敗後の經營中々充分ならず不如意の内にも忍耐と勉強を重ね其華客に對するに懇切と鄭重を旨とせしかば今は當港網商屈指の店と稱せられ賣高の如きは優に第一二を下らざるに至れり

因に誌す 水澤産麻絲麻網の賣弘めは本港に於ては鈴木辨藏氏を以て嚆矢とす

○寺井商店

寺井商店は末廣町にあり一を陶器店二を金物店三を漆器店に分つ本港著名の商店なりとす陶器店は尾張燒、信濃燒、肥前燒、京都燒、九谷燒、萬古燒、淡路燒、錦水燒、常滑燒、信樂燒、會津燒、相馬燒、出雲燒、等諸國陶磁器類を販賣す金物店は内外金物類を一切販賣す漆器店は諸國漆器荒物類及白耳義國直輸入硝子板各種を販賣す同店の商品は總て各産地より直輸入するを以て其直段も至極低廉にして品質も良好なるより華客頗る多し

有名なる商店の案内

○菊泉商店

(新編版参照)
(林三三氏)

菊泉商店は末廣町百五番地(日利坂の左角)に在り商號は「目」にして菊泉は屋號なり同店は常港輸入酒並に醬油雜詰類發賣店中屈指にして濰及中國は勿論各地有名の清酒舉げて同店に在り其販賣額優に當港酒造家を凌駕し人をして酒造家の好試金石と云はしむ亦以て同店菊泉の名聲を知るに足る清酒雜詰は其體裁高尚優美最も進物に適し雪月花並に旅行等には最上の好伴侶なり今茲に同店の銘酒を紹介せん
菊泉、金露、正宗、菊千代、千種、松の實、大勳位、豊の實、

末廣町

以上の諸酒品位の醇良にして而も其香味の卓絶なるは眞に百薬の長と云つべし

又同店が近年發賣にかゝる陸前國遠田北浦鎌田常之助氏の醸造醬油常盤なるものは風味の佳良なるため備用者の高評は區内に充つ

○常吉崎商店

(吉崎清七氏)

吉崎商店は末廣町五番地に在り商號を『山常』と呼び諸國産食料品の販賣元祖として當港に名高し其營業は各國産食料品雜詰、漬物、鮮魚等なり

同店は食料雜詰其他販賣品は各國の製造家と特約を結び品質の佳良なるを撰擇し精品を輸

入販賣す

同店は誠意誠實實利主義を旨とするが故に四方より信用せられ販路の區域を擴張し店頭常に華客を以て混雜を極め確實なる商店なり因に誌す 同店が明治三十三年十一月大日本農會第三十五回農産品評會及び大日本水産會第九回水産品評會千葉縣に開會のとき自製櫻實雜詰出品せしに賞狀六等賞を授與せられたり

○松下商店

(松下隆雄氏)

松下商店は本港樞要の地即ち末廣町の十字街に在り商號を『△』と稱呼し高等毛皮類賣買を

以て業とす

同店は揚言して曰く

松下商店は毛皮類を海外に直輸するに比り毛皮類賣却の方には取詰め高價に引受くる事の事

松下商店は海外僻遠の地へ人を派して毛皮類を買受くるため上等の毛皮を安價に販賣す事の事

松下商店は製革及毛皮の染色裁縫細工に巧なる意匠に富める職工を有す故に製革並に毛皮染方裁縫を望まるところ方に大安直にて需めに應ずるとのこと

以上は同店の社會に對する責任
然るに同店は三要件を以て南海の羅針盤となす

有名なる商店の案内

六六

し實行じつとありとの世評あり故に同店の如きは羊頭を掲げて狗肉を賣るの奸徒と同視すべからず

同店が近來非常に優勢を占め日に店頭顧客満ちて多忙を極む當港毛皮商の巨擘なり

○藤井南生堂

(寫眞版参照)

藤井南生堂は末廣町函館郵便電信局の隣にあり食料品進物用類の調進を以て夙に其名を博し店頭毎に市を爲せるが如し商號は『○』と云ふ

同店は年來食料品類の販賣を以て營業と爲し卸賣と小賣とを問はず専ら確實と勉強を以て

六七

末廣町
各需用者の便益を圖るが故に取引の手廣きは驚く可き景況にして区内無二の商店と云ふも不可なかるべし

商品は各製出地より直輸入を爲し品質を吟味して極て實用に適し其價格を勉強し如何なる上等品と雖も能く整はざるなく又如何なる並物と雖も能く備はらざるなく其商品は食料、詰瓶詰洋酒類、西洋菓子、輸入漬物類、其他珍品、柄の進物、各種の精製品を備へ盛に營業に従事するを以て益々隆盛に赴くの觀あり

因に誌す 同店は顧客の便宜を計り進物用に四店共通の切手を販賣す(四店は鶴岡町、そば、やぶ止町、そば、大黒町、岡田、そば、やぶり)

○笠川商店

(笠川治助氏)

同店は末廣町丸井吳服店の向に在り商號を「六」と云ふ米穀乾物類、片栗及肥料粉類の問屋なり

同店は本店横濱市花咲町一丁目にあり又小樽色内町にも支店あり本支氣脈を通じ敏活に商務を裁断し中々活潑に商業海を游泳しつゝあり常港同業者中の老舗を以て知らる

○坂本商店

(高眞版彦照 坂本嘉吉氏)

坂本商店は末廣町五十七番地に在り商號を「三」と稱し軒頭高く「甘藷、菓實、雜穀、片栗、乾物、鯉節、問屋」の看板を掲げ一見

以て其營業を知るに便ならしむ区内に於て商賣の繁昌と顧客の多きを以て之を同業中に求むれば先づ同店に指を屈すべし

本港繁華の中樞にありて日夕出入する處の貨物は南部津輕より菓實類、名古屋大阪横濱よりの乾物類、東京各地方より雜穀、甘藷、鯉節等其重なるものにして又當地附近得意先へ送出する

處の貨物は日々幾何なるを知らず之に加ふるに区内所在の料理店、飲食店の需用に供すべき小賣向の來客は常に店頭を填む故に偶々此地に遊ぶ者は此光景を目撃して其繁榮に驚く事あり而して同店が商品の新鮮なると比較的價格の低廉なるは需用者の許す所にして又同店の自ら特色とする所なり蓋し商品の新鮮なる

有名なる商店の案内

は以て顧客の信用を博し價格の低廉は以て商賣の繁榮を來たす所以にして商賣の秘訣も亦實に此處に存す坂本商店の如きは當に能く此の秘訣を會得せしものといふべし

因に誌す 同店片栗の販路は東京横濱神戸大阪に輸出し優に他店を壓倒し居るとのことなり

○伊月支店

同店は末廣町三十五番地にあり地蔵町丁字街伊月三郎氏の支店にして洋物小問物類を販賣す

料理店

モシク二一六番お話中なら十番へのまるも料理店は東濱町棧橋前にあり客室庭園共に清楚にして待遇又頗る實直なり故に紳士連の華主最も多く蓬街の小林亭谷地の淺田樓西の勝見家と並列して當港料理店の四天(店)王と稱せられ革新先鞭は同店の大標榜なり

〇一二堂書店

一二堂は末廣町丸井吳服店の筋向にあり教科書、學校用具類、學校諸帳簿、及諸表用紙類、學校用書證類を販賣す

同店主は誠意正實にして能く信用を博し兒童

に接するに親切丁寧なるを以て競ふて同店より之を需むるもの日を追ふて益増加す今や老舗を凌駕せんとするの盛況に至れり實に賀すべき事なり

〇桐屋商店

(寫眞版参照)

末廣町十四番地に於て桐屋の屋號を用ひ「X」の商號を付したる暖簾を掲げたる商店を新井重吉氏の下駄店と爲す

近時下駄類の嗜好が極めて贅澤になりしは都鄙を論ぜず男女を問はず正に一種の流行と稱すべき有様なるが故に其製作の精巧緻密なるに伴て其價格の不廉なるは實に一驚を喫すべ

而して其價格は同店特色とする所の大勉強にして極めて廉價なり爲めに本支店とも日増繁榮に赴けり

〇香玉堂藥舖

末廣町二十間坂角に在り和漢洋藥諸名家の賣藥を販賣し傍ら公衆の便利を計り收入印紙郵便切手及鐵道馬車切符を賣捌く同店の女將香中々マ子夫人自ら店頭にありて諸事を便務し親切丁寧なる他店の及ぼざるなり香玉堂の稱あるは女將の姓名に據りたるならんと想像す

き程なり

然るに同店は木地、表、鼻緒類より雪駄類に至るまで新形、新意匠の品種を仕入れ流行を追ひ時候に投じ毫も舊習に泥まざる様心を用ふるを以て日常普通の堅牢向より優美高尚の上等品迄非難を加ふべき點なく質朴なる在方ものもの贅澤なる通人も競て同店の品を求むるが故に店頭常に好況を呈す

又傘類、其他一切の附屬品類も悉く品質を吟味し在るを以て何人も懸念なく同店に就て購求することを得誠に手堅き商店なりとす
同店は本港内華客の便利を計り工場を船場町に第一支店を蓬街仲の町に第二支店を大黒町に第三支店を鶴岡町に置き需用に應ぜり

有名なる商店の案内

末廣町

○藥舖鎌田衛生堂 (鎌田莊八氏)

末廣町第三坂左角を見れば屋上と軒頭を問はず種々なる看板を掲げたる商店あり鎌田衛生堂と云ふ藥舖則ち是れなり
同舖は商號「田」と云ふ和漢洋藥を専業となし衛生化粧用あれしらすの本舖なり
同舖は東京大阪外諸國の有名家賣藥は勉めて實効の確實顯著なるを競ふて蒐集販賣し世人を益すること妙ならず爲めに大に信用を博し居れるなり

○又加藤商店

(寫眞版参照)

本港唯一の時計店として業務の隆盛なる販路

七二

の廣大なる同店の如きは區内稀なり實に同業者中に在て巔然として頂角を顯はす者と云ふべし

同店は末廣町七十九番地に(丸井吳服店の側)に在り時計類及附屬品並に時計修繕用具指環眼鏡寒暖計類等の卸小賣を爲し品質に應じ確實なる保險證を付し熱練の職工を使用して時計を修繕し傍ら兩換をも業とす

近時時計指環其他の裝飾品が新形と云ひ新意匠と稱へ互に競ふて流行を作り嗜好を惹き或は優美高尚に或は瀟洒風流に幾多精巧美妙の製品を出すに依り同店は常に此貴紳淑女が交際場裏の花とも稱すべき優等品より實用專一の堅牢品に到る迄其種の數を知らずと雖も悉

く之を具備して以て顧客不時の需に應ず其規模大なりと云ふ可し
殊に同店は横濱神戸の各商館及内地製造發賣元は其何れを問はず手廣く取引を爲すが故に其豊富なる商品は燦爛なる殆んど眼を奪ふの觀あり

○田武支店

(寫眞版参照)

田武支店は末廣町一番地にあり海産物、肥料、雜穀の委託販賣を業とす
同店は規模頗る大にして本店は伊勢國四日市市濱町に在り東京深川區小松町に出張店あり同店は海陸物産に關する買買取引は一切之を

有名なる商店の案内

○健全舎兼村商店

健全舎兼村商店は末廣町八番地(棧橋より末廣町に通る處の右側)に在り帝國陸海軍、英獨兩國海軍御用達及食料品賣込商を爲す傍ら

取扱はざるなし故に以て其取引先も隨て廣く毎年海産の時季に當りては各地よりの電報織るが如く來り又當地仲買商人等委く同店に入し其繁忙なる一見其繁に驚くものゝ如し然れども業務に忠實なる店員はよく懇切に丁寧之を處理して一の遲滞しあるを聞かず
同店は本港同業者中の屈指にして確實なる商店なり

七三

土木建築請負をも兼ね行ひ確實なる信用のある店なり。

末廣町

七四

同店の勉強と低廉はよく顧客の意を迎ひ確實なる商店なり

○金鹽谷商店

(鹽谷甚右衛門氏)

鹽谷商店は末廣町十字街に在り内外煙草問屋を以て當港に知らる山甚は商號なり故に山甚の煙草、煙草の山甚として店頭常に顧客山をなす

○都 庵

都庵は末廣町三番地にあり會席料理仕だしを以て有名なり客室の清潔なる料理の嶄新なるは同店の特長なりとの評判なり

○全菊池治平支店

山、全菊池治平支店は末廣町十九番地に在り雜貨、荒物、割竹、菴類を販賣す

○三平田商店

平田商店は末廣町十番地にあり和洋建築鐵物商を業とす本道著名の商店にして「金三」は商號なり

○加藤商店

加藤商店は末廣町九十四番地に在り和洋小間物類を販賣し九九は商號にして同業者中屈指の店なり

○愛新軒

愛新軒は末廣町八幡坂の右側にあり全國新聞雑誌を販賣する老舗なり

○三ツ谷鐵物店

三ツ谷鐵物店は末廣町八十三番地にして商號を「金三」と稱呼し和洋鐵物卸小賣の傍ら度量衡を販賣す當港著名の鐵物商店なり

同店は煙草入、烟管、烟管筒、緒、金具、紙入等西洋小間物の各種類に就て極めて優美なるもの、高尚なる物、堅牢なる物を撰み新形新柄、新流行、新意匠の美術的袋物類を仕入れて所謂持物道樂の贅澤品より或は丈夫向一方の並袋物迄同店に至れば即ち其用を辨せざるなし殊に他店に匹敵して價格の低廉を主とするが故に遠近の華客より續々注文に接し日々繁昌せり

同店の商品は各産地著名の確實なる商店と特約を結び又神戸横濱等の商館と特約を結ぶ等仕入元に注意を加ふること尋常一様にあらずれば其品質の善良なるを以て世人に信用を博する處なりとす

有名なる商店の案内

七五

卸買取引は本道各地及青森秋田等に及びて甚だ手廣く確實を主として怠らざれば次第に信用の地を堅ふし其範圍を擴張しつゝあり小賣は又其任する所にして優物多くして他店に譲らず總て確實を專一として低價に販賣せり

○羽田商店

羽田商店は末廣町三十一番地にして商號を「司」と云ひ専ら漁網類の卸小賣を以て營業と爲し年來尤も誠實を旨として商賣に熱心なるに依り顧客の間に其信用を博し北海道沿岸需用者の増殖に隨ひて漸次商勢の繁昌を來らし今や益々販路の膨大するを見るに至れり

同店は各地有名産地より輸送する網絲類及本道より産出する所の麻網類のものは總て之れを蒐む其種類を擧ぐれば

- 東京平賀製綿絲綿網大販賣
- 北海道製麻會社製漁網函館一手販賣特約
- 粉漉全道一手販賣特約元
- 岩絲配繩用網絲類
- 越後網並に水澤網各種
- マニラロープ並に麻ロープ
- 椶櫚網及柿漉玉漉類

以上の類にして就中東京平賀製綿絲網北海道製麻會社製漁網の大販賣を爲すを以て總ての漁網類等は之を扱かはざるなく能く需用家の意に適する様勉むるが故に漁期盛時に當ては

其繁昌は實に豫想の外に在りて當港に於ける著名の網商店なり

○内國通運株式會社

函館支店

(寫眞版参照)

内國通運株式會社函館支店は町二十四番地に在り

同所は本港繁盛の區域にして末廣、地蔵、鶴岡、船場、汐止、豊川、辨天、大黒等の諸町を左右に前面は東、西、仲の濱町と幸町ありて貨物を集散する上に於て其位置が好適所なり故に同支店は顧客多く其繁雜熱鬧殆ど名狀すべからず出るもの入るもの等ありて一見其煩

有名なる商店の案内

に堪へざるの觀あり

然れども同支店長小林吉十郎氏店務整理に富み加ふるに業務に堪能なるの店員は能く瞬時に之を處理し停滯踟躕せしむることなく機敏と熱練とを以て常に顧客の稱揚する所となるは確に當支店の特色として誇るに足るべし

○池龜印舖

同店は末廣町(龜田屋小路)に在り印刷版木彫刻朱肉黒肉販賣引札名刺印刷を業とす同舖は職工の熱練なるものを有するためと期日を過らざるを以て華客の信用を博し益々隆盛に赴きつゝあり

○仲村商店

(仲村金右衛門氏)

仲村商店は末廣町百一番地にあり和洋煙草、各國諸紙、砂糖類、蠟燭、紫麵、白玉粉、大阪銘酒、白紋油、燐寸等を販賣す本港著名の商店なり

同店の位地は本港繁華の區域に在るを以て總ての商品賣行き宜く他の遠く及ばざる所なり而して同店が仕入に對しては平常心を用ひ品質を吟味し在るを以て何人も懸念なく同店に就て購求することを得誠に手堅き商店なりとす故に區内幾多の需用供給者は勿論本道各地に顧客を有するなり

同店は價格を低廉に勉強販賣は特色にして江

湖に信用を博するも其處なり而して商號は「イ」印と稱呼す

○開通堂

(寫眞版参照)

開通堂は和洋菓子類製造を以て有名なり末廣町二十間坂下に在りて創業以來實に四十餘年の久しきを一貫して菓子製造に従事し商號は「丸」と稱呼す區内幾多の同業者ありと雖も真正なる老舗は同店の右に出づるものなかるべし

同店は始め麵麩菓子の製造を爲す是れ抑も北海道に於けるパン菓子製造の元祖にして爾來斯業の進歩を圖り昆布菓子、蒸菓子、餅菓子、

羊羹、煎餅、落雁、カステラ、の各種類を製造し其風味の高尙なる優美なるは他店の遠く及ばざる所なり而して當店主輕部寅吉氏は菓子製造の術に長じ年來頗る聲名を博す又熟練なる職工を役とするが故に其意匠精巧風味優美高尙なるは特に同店の得意とする處なり然れば遠近各商店料理店等は一に同店の製品に依らざるはなしと云ふ其隆盛なる推して知るべし

○河島谷商店

(島谷安三郎氏)

島谷商店は末廣町綠坂(俗に廿間坂といふ)の

有名なる商店の案内

角にあり燐寸軸木、酒類、片栗粉、海陸産物を販賣し商號は「山形に河」なり酒類は大阪、堺、灘、軸木、片栗粉は北海道又は陸奥地方より輸入す

同店製造の片栗は品質佳良なるを以て明治二十五年北海道物産共進會に出品せし折には特に褒状を授與せらる又明治二十八年第四回内國勸業博覽會に爪哇薯澱粉及燐寸軸木出品せしに是れ又褒状を授與せられたり故に其名聲高く隨て販路も擴張し神戸、大阪、東京、伏木、金澤等に普及し日々の製品其需めを充すこと能はざる場合もありと聞く

又銘酒、春駒及其他の酒類柑橘類は本道各地に輸出して高評を受く

末廣町
同店は一時の名利を貪る如きことなく誠實勉強を主眼とするが故に日々顧客増加し隆大の域に進みつゝあり

○正旅 館

壯麗なる三層樓上筆太に中島屋と云ふ屋號を配し四通八達なる天然の便利なる東濱町棧橋前に建築を構ひ常に旅客充滿して雜踏を極め繁昌しつゝあるは云はずして誰れも知る當港有数の丸正旅店なり（これは町名番地は末廣町八番地なれども地勢は東濱町棧橋前と稱する方適當をらん）
同店は當港屈指の旅館にして確實なるを以て

八〇
其名知らる客室多く清潔にして空氣の流通特によろしく取扱頗る丁寧にて客筋は内地及本道の紳士實業家に多し何時も旅客を以て充滿されをる旅店なり

○今市商店

(寫眞版参照)

今市商店は末廣町にあり本道に於ける著名の老舗なり店員の親切丁寧なるは世の人の知る處なり商品は

- 毛布類
- 洋傘類
- 食料雜詰
- マンチル
- 靴各種
- 唯 器
- ホンチル
- 帽
- 洋小間物類

○平田東店

平田東店は末廣町十一番地にあり度量衡錫釜を販賣する商店にして商號は「金一」なり

○逸見商店

人若し函館に於て砂糖麥粉卸小賣商の中に就て其最も業務の盛大にして且つ取引先の區域廣大なる商店を問はば誰れか久上商店を推さざる者あらん同店は當港同業者中の老舗たるに耻ぢず其商號は「久上」と稱呼して其名高し而して同店は末廣町八十四番地に在り砂糖麥粉菓子同店専業の商品にしてハッセル社と特約して直取引を爲し其數量の多大なるは同業者中多く其比を見ざる所なりとす販路は青森秋田釧路根室等に亘り殊に當港の菓子製造業者が使用する原料砂糖類の如き過半は同店の供給に係らざるなし故を以て店頭は毎

○金森商店

(寫眞版参照)

金森商店は末廣町にあり洋物類を販賣す同店は本道著名の洋物店にして其品種を擧ぐれば西洋小間物類 洋服附屬品各種 新形帽子 其他各種 和洋メリヤスシャツ類 和洋毛織物各種 靴各種 鞆各種 毛布 肩掛品 洋服新調 其他流行の新柄珍柄各種 以上の數種にして商品の富豊なる店員の親切丁寧なる流石本港の老舗として耻ぢざるなり

有名なる商店の案内

末廣町

に貨物輻湊殆ど間断なく其繁盛の状は筆紙に盡くし難し

賣品は尤も精良の品質を選び確實と勉強は世間已に公評あり今又茲に贅せず

○千秋庵

(寫眞版参照)

千秋庵は末廣町に在り昆布菓子富貴菓子の元祖なり

区内幾分の菓子商ありと雖も位置の好適地なると信用のあるは先づ巨擘なるべし

○並木製靴店

並木製靴店は末廣町八幡坂の下角にあり同店

八二

は本港に製靴業を営むこと十有八年にして日を追ひ益々隆盛に赴くは需用者の愛顧に依るとは云ふものゝ原因なくして叶はざるもの其原因とは

技術の精功 熟練なる職工

價格の低廉

以上の三要素は同店今日までの隆盛を繼續せるものなり

而して同店は明治三十四年四月製靴便覽なるものを印刷して遠近の華客に頒てり斯業のため熱心勉強なることは他店の遠く及ばざる處なり本書掲ぐる處の寫眞版は其一部を模寫せるものなり

故に同店の信用厚く顧客常に店頭に満ちて混雑を極め居れり

地 蔵 町

○金子商店

(寫眞版参照)

金子商店は地蔵町四十四番地に在り商號を「大丸」と稱し煉化石、屋根瓦、網足、土管を製造販賣す工場は龜田郡龜田村大川通三番地にあり

故金子利吉氏は本港に於ける瓦製造業者の元祖にして嘉永年間上磯郡茂邊地村に於て原料に使用すべき土あるを發見す當時幕府は同所へ道心長屋なるものを建築するの舉あり氏夫れに參與して該長屋に使用すべき屋根瓦を引

有名なる商店の家内

受け直ちに製造に着手す是れ本港に於ける瓦製造の嚆矢なり爾來切磋琢磨して今日に至れるを以て當店主金子孝太郎氏も先代の遺志を襲ぎ内地各地を巡視して事業製作上の事を探究す氏温厚にして實直なり

故に製作の上に於ては能く注意し粗製濫造の弊を矯む是れ信用を博する基因なり工場の整理は氏の經驗より成りたるもの故具備せざるなし加ふるに職工の熟練なるあり兩輪相備ふ當港の名寺高龍寺、淨玄寺、願成寺、稱名寺、實行寺、湯殿山等は皆同店の瓦を用ゆ其他北海全道各地幾多の需用者より歡迎せられ日々製品其需めを充すこと能はざるを恨み益々業務を擴張せんと計畫しつゝあるなり氏の如

八三

地蔵町
きは斯業に忠實なりと稱するも敢て過稱に非ざるべし

因に誌す 故金子利吉氏は公共事業に對し不埒公勢あるを聞く他日を待て其治蹟を紹介することあるべし

○有江商店

有江商店は地蔵町四十九番地に在り商號は「丸ア」と稱す
同店は和洋諸物諸器械製造を業とし丸ア印改良硫黄製煉釜は鑄造元なり工場は東川町二百十九番地に設け盛大に行ふ確實なる商店なり

○山口商店

山口商店は地蔵町六十番地に在り「丸山」は商號山崎紬を商ふ本港廣しと雖ども一の商品を以て巍然として立つものは同店を措て他に非らざるべし是れ本港やままゆ紬の元祖なり産地は廣島にして地質堅牢使用上久しきに耐ゆ模様は嶄新變色なく價格低廉にして見榮よくいつれよりするも經濟上に便益を得る品物特に小児着などには至極適當の品なりとの高評を受け日々數十の客は引切れざるなり

○團旅 館

井桁矢旅館は通稱井桁屋と呼び地蔵町六十一番地丁字街より入口に在り近年の開業なれども旅館の主人はよく事理に通曉し居るを以て取扱の親切なると勉強なるとに依り日々繁昌し益々隆盛に越けるなり又公衆の便宜を計り日本郵船會社の乗船切符をも賣捌くと云ふ

○木下商店

(寫眞版参照)

木下商店は地蔵町五十六番地にあり和洋小間物、新形流行品各種、有名化粧品類、内外石鹼各種、並にタオル類、仕立物足袋類の卸商

有名なる商店の案内

を以て本港に於る著名の商店なり商號は「丸」と云ふ

同店卸小賣の品物は店主自ら品質の仕入に注意し價格の低廉を旨とし時好に投じ流行を追ひ新形珍柄の各種類を他店より早く賣出し等何時も機先を制し専ら着實に營業に従事するを以て區内幾多の需用者は勿論本道各地の商人の便宜も尠なからず隨て此店に歩を移すもの頗る多く當港多數の同業者は在て常に人後に落ちざる極て評判の良小間物問屋なりとす
因に誌す 同店は朝日、デンソ、石鹼の發賣元なり

○藤川商店

(寫眞版参照)
藤川佐兵衛氏支店

藤川商店は地蔵町六十一番地に在り(俗に云ふ地蔵町丁字街角)茶、茶器、酒類の卸小賣を爲す商號「尖」と稱呼して有名なる商店なり同店は江州藤川氏の支店なり茶は本店自製の者宇治より酒も又本店醸造の者と攝州より茶器は京都及東京大阪等より何れも直輸入す銘茶類及酒類の營業を爲す者當港其數甚だ妙なからず而して其商業上互に相競争し各品質に價格に精撰と勉強を以て多數需用者の愛顧を買はんとする點に於て或る一二商店と甚しき逕庭なく互に伯仲の間に在るの有様なりと雖も藤川商店の如きは正に一頭角を露したる

者と云ふべし故を以て品質の精撰にして其價格の至廉なる多辯を要せざる所なりとす故に販路は區内は勿論遠く青森秋田及全道各地に輸出せり同店は誠實誠意勉強を旨とするがためよく實用に適するとの高評にて華客日増々加し優に老舗を凌駕せり

○本間商店

(寫眞版参照)

本間銅器店は地蔵町に在り「丸本」は商號なり店主本間與作氏多年銅器製造の業を營む工場は整理行届きて間然する所なく熟練の職工を多く使役して改良澱粉器械、銅器改良風

呂釜(衛生無害但錫掛け)唐金眞鍮類飲食器を製造し販賣する區内屈指の店なり特に改良澱粉器械製造は同店元祖なるを以て區内澱粉製造者は多く同店より之れを需む製作の精巧なると堅牢なるは全く器械の準備と職工の熟練とに依るものにして大に世の好評を博す

因に誌す 明治二十五年北海道物産共進會に同店製造に係る樂鐘及馬鈴薯澱粉器械出品せしに有功褒狀を下付せられたりと云ふ

○丸善菅谷商店

(寫眞版参照)

菅谷商店は地蔵町五十七番地に在り當港廣しと雖も丸善菅谷と言へば三歳の童子も知る

有名なる商店の案内

本港著名の酒類醸造家なり丸善は商號當主人菅谷善司氏事理に通じ性温厚にして質朴實業家の要素天然に具ふ其醸造法の嚴正にして器具器械の完全せるは誠に多年の成績に依りて生み出されたるものにして銘酒管の井の醇良なる其風味の高尙なる均しく多年の經驗に依りて得られたる同店の特色にして世の好酒家の賞賛措かざる所なり醸造場は當港音羽町六十四番地に設く銘酒管の井を各地博覽會に出品し有功賞を受領する屢々一枚擧して江湖に紹介せんと思へども紙數限りあるを以て略す本港同業者の興廢常ならざる中に立ちて特り同店の能く久しきを守り益々業務を擴張し隆盛を致す所以

ものは自ら深く據る處なくんばあるべからず他なし熱心誠意以て任ずるの結果なりと。然れば其製造高も年々増加し本港製造家の巨擘たり

○峯友烟草店

峯友商店は地蔵町北側二十七番地にあり商號を「金」と稱し和洋刻巻烟草の卸賣を以て専業とす

○山野井石版所

山野井石版所は地蔵町にあり名刺、株券、地圖、商標、ペーパー、廣告等を印刷し其鮮明と意匠の最新なるは同店主の特長なるを以て世の信用を博せり

同店の商品は總て各產地製造元より直接輸入なるが故に其品質の良好なると價の至廉なるは同店の特色なり就中阿波刻烟草三安印は色澤香味共に佳良にして能く當地需用顧客の嗜好に適し其賣行非常に盛なり殊に同店は常に顧客に接するに専ら誠實と勉強を主とするが故に信用益々厚く各地取引先よりの注文日々に頻繁にして店頭常に忙しく將來有望の商店なり

○進藤商店

(寫眞版参照)

進藤商店は地蔵町八番地にあり其營業は和洋鐵物類の卸小賣を爲す商號の「司」は却て人口に膾炙する處なり

而して商品の何たるを問はず何れも其價格を低廉にして能く顧客の便益を計るは同店年來の長所として稱するに足るべし其着實と勉強とが尋常普通と異なる丈夫れ丈信用の愈厚きを加ひ店頭何時も雜賄を極む同店の如きは當港同業者中の巨擘と稱するも敢て過言にあらざるべし

○千葉商店

千葉商店は地蔵町尾籠岡町界に在り商號を「丸松」と稱へ同町屈指の雜貨店にして其品種は舉て數ふ可らず先づ大販賣としては和洋酒類、和洋砂糖類、食鹽、煙草、石油、味噌、

有名なる商店の案内

地 蔵 町

醬油、鐵詰類等にして其他の雜貨は堆積殆ど山を爲し日用必需の物品は總て扱はざるなき商店なり當主千葉松次郎氏常に流行の推移に注意し又能く機先を制する眼光を以て商品の精撰を期し勉強低廉に販賣するに依り顧客の信用あること夥し故に華客の同店に歩を移すもの頗る多く能く繁昌する商店として評判高し

○金田一藥舖

(金田一健太郎氏)

近世醫學の進歩に伴ひて醫藥と謂はず賣藥と謂はず將又滋養品と謂はず何れも専門の學士博士に就て其滋養を研究し泰西の藥料を配劑

九〇

して以て藥物生理に適應すべきものを調製し勉めて實効の確實顯著なるを就ぶが故に衛生上に及ぼすの効果は頗る見る可き者あり地蔵町六十六番地に軒頭種々の看板を掲げ通行人をして一見其藥舖なるを知るに便ならしむ金田一藥舖是れなり同舖は醫藥賣藥を専業となし滋養品香料繪具洋酒等の各種を販賣す同舖は東京大阪諸外國の有名賣藥類の各種は勿論工業用藥品葡萄酒ミルクスコット乳菓其他各種の滋養品等完く備り同業者中に在て屈指の藥舖なり

○伊月商店

(寫眞版参照) 伊月三郎氏

伊月商店は地蔵町丁字街角に在り商號を「イ」と呼び洋物小間物類を販賣す近時洋物小間物類の流行は新形珍柄に意匠を凝らし美術的製作を重とするに因り伊月商店は大に注意して能く流行の品種を仕入れ總て時好に適し好評を得就中メリヤス類各種新形流行帽子等より流行化粧品石鹼齒磨類に至る迄品物を吟味し以て價格を廉にし勉めて來客の意を迎ふるが故に便利至極の商店なりとの高評なり又同店は末廣町三十五番地に支店を設け顧客の便宜を計れり

○平田支店

平田支店は地蔵町十一番地にあり度量衡販賣鐵物店なり末廣町金二の支店にして商號は金二なり

有名なる商店の案内

九一

豊川町

○父森商店

(森嘉美太氏)

森商店は豊川町にあり海陸物産委託買日清貿易品の受託を専業とす

同店は商號を「山形に久」と稱し當港海産業者中屈指の商店なり

○柿崎商店

柿崎商店は豊川町二十一番地に在り和洋酒煙草其他雜貨類を販賣し傍ら築城部函館支部及

り信用せらる

○吉田商店

吉田商店は豊川町五十一番地に在り諸乾物各種詰紙の卸賣と諸帳簿紙袋類の製造を爲す傍ら砂糖菓子袋のし水引等を販賣す同店は多年該營業を爲し居る故に華客多く確實なる商店なり

○長島商店

同店は豊川町四番地にあり營業は日清貿易品干魚鰯魚の粉肥料米穀食鹽類の委託買にし

有名なる商店の案内

函館陸軍兵器支廠の御用達を爲す勉強の店なり

○佐々木商店

(佐々木勇雄氏)

佐々木商店は商號を「金秀」と呼び萬籠竹を販賣し漁場用の籠を製造販賣する確實の商店にして豊川町二十三番地に在り

○前側商店

(前側末松氏)

前側商店は豊川町二十三番地に在り商號は「丸松」と呼び各國和洋酒雜貨荒物類其他菓實類を販賣し最も確實の商店なるを以て四方よ

て商號は丸三ッ鱗なり

○岡商店

(岡喜一郎氏)

同店は豊川町一番地にあり海陸物産委託買業として當區確實なる商店にて商號は「角キ」なり

○藤堂商店

同店は豊川町にあり海陸物産委託商を業とす商號は金丸にして確實なる商店なり

○佐野支店

(寫眞版参照)

佐野支店は本店醸造の醬油を販賣する處なり
豊川町一番地にありて需用供給を允せり

○池田鐵工場

(池田勝右衛門氏)

池田鐵工場は豊川町三十五番地に在り商號を
『鐵』と唱ひ文政初年の創設にして萬鐵物製
造の業を營む實に函館同業者の開祖なりと稱
せらる

同場は材料を東京、横濱、大阪より輸入し倉
庫用、建築用、礦山用、漁場用器具、鐵板扉、
諸鐵物、諸器具、船釘類等は重なる製造品に

して区内及龜田茅部兩郡日高釧路十勝根室後
志天鹽北見釧路千島等は同場の華客なり
當港數百の鐵工場ありと雖も百事具備しある
ものは僅々二三にして丸き池田は即ち東の巨
驛なりと云ふも過稱にあらざるべし
而して同場製作に係るものは其精巧と堅牢な
るは全く器械の準備と職工の熟練とに依るも
のにして大に世の好評を博し日々多忙を極め
居るも故なきにあらざるなり

○北海商報社

(寫眞版参照)

北海商報社は豊川町一番地にあり北海商報
(商事)を發刊し傍ら活版、石版、諸帳簿製本

の注文織るが如し隆なりと云ふべし

○内山旅店

(寫眞版参照)

内山旅店は豊川町二番地にある旅店にして茶
代廢止論者の當港に於ける首唱者にして日々
の繁昌實に眼を廻らす程なり盛なりと云ふべ
し

を業とす

北海商報は社主高田安次郎氏の筆に成るもの
にして氏自ら探海燈となり商業海を游泳する
こと久しきを以て其商況の潮流と人氣の趨勢
とを見ること機敏にして正確報導迅速なるが
故に常に當事者をして寒心せしむることあり
爲めに實業家の賞揚歓迎する處となり今や購
讀者は本道及内地臺灣朝鮮米國の實業家に普
及し當區同業者中の優勢を占め其印刷高は優
に政治新聞を壓す

同社は輪轉印刷機手引印刷機數臺を備へ製本
器械を具へ熟練なる職工を使役し活版印刷の
業に従事せしむ技術の精巧なると印刷の鮮明
なるは最も長ずる處なりとの高評を博し日々

有名なる商店の案内

鶴岡町

○藤井本店

藤井本店は鶴岡町五十七番地に在り生蕎麥を以て常港に名高く商號の○は却て人口に膾炙する處にして同店の支店は沙止町の藤井そばや大黒町の岡田そばや末廣町郵電局の隣り藤井南生堂にして共に有名なり
九一藤井本店は生蕎麥の外即席御料理を兼ね其調理の美妙なる新鮮なるは同店の特長にして同町界隈は皆同店による
九一そばの世間より高評に受くる原因は重

に同店主の實直にして待遇の周到なるを原料と職人を東都より呼下し専務に其事に當らしむ是れ他店に多く其類を見ざる所以にして世の稱賛も故ちきにあらざるなり

○一眞堂印判彫刻所

印判彫刻者間には多く篤實勉強期日迅速を缺くものあり然るに一眞堂はこれを嚴守して及ばざるまでも遂行せんとの看板を掲げたり
余これを試みんと依頼せることあるに勉強の結果迅速に出來彫刻も亦美事なりきよつて看板に偽りなきを證するに足る店舗は鶴岡町四十八番地鐵道馬車停車場前にして一眞堂とい

へば印判屋なりとすぐ分ります

○千歳商店

(千歳常太郎氏)

鶴岡町二十九番地交番所前にあり和洋小間物其他種々なる商品を陳列し其廉價なるは同店の仕入元を吟味し勉強販賣する處なり特に鐵道馬車引切符並に月極切符を賣捌きて旅行者の便益を計れり

論全道各地漁場に輸出す

同店は茄子松茸かぶ形等の焼麩を製し大に高評を博したり「山ノ二」商號の名高し
同店は製造業の傍ら京都染物の取次を爲し大に依頼者の便利を圖りつゝありと聞く

○安達商店

(安達善治郎氏)

同店は鶴岡町二十八番地にあり商號は「番」にして萬仕立物類にては有名なる店なり

○金村田商店

(村田安次郎氏)

村田商店は鶴岡町十五番地に在り焼麩、晒生麩を製造し卸小賣の業を營む販路は区内は勿

○前澤製造所

鶴岡町三十三番地にあり「丸」は商號なり萬

有名なる商店の案内

九七

織物諸器械を製造し其精巧なるは該所の世評なり

大に信用を博し確實なる商店なり

○川口旅店

川口旅店は鶴岡町六十九番地にあり通稱九吉と呼ぶ同店主は客に對し親切なるを以て日々數十名の客は下らざるなり

○金谷口商店

(谷口源太郎氏)

谷口商店は鶴岡町三十四番地に在り商號は「山五」と稱す
同店は萬焼鉄晒生鉄を製造し卸小賣を業と爲す區内は勿論岩内、葦郡、江差、釧路、十勝等の各商店及近海の漁場に輸出し尤も確實なる商店なり

○梅内商店

(梅内久次郎氏)

同店は商號を「山一」と稱し鶴岡町十番地に在り改良の柏桐、漆網羽襦類等を製造販賣す
同店は實直にして低廉勉強を旨とするが故に

○富川商店

(富川要太郎氏)

同店の本店は高砂町十四番地に在り鶴岡町六

○函館炭商合資會社

十八番地は支店なり諸車を製造販賣し「丸富」は其店の商號にして車製造業中信用ある店なり

○池田和洋小間物店

池田商店は鶴岡町十二番地にあり商號「角丸」と呼び和洋小間物類を販賣す
同店は古來同業を營むため仕入元を吟味し品質精良價格低廉にして勉強を旨とするゆゑ大に信用せられ華客遠近より同店を指して來る

日用品の内一日も缺くべからざる重なる數に入るべき炭も其品の善惡により大に月々の經費を短縮するもの何處の炭やはいれづらなり
ほんにこまると惡評だらくなる中に買目もよく炭はよほどの區内一般の高評を受け日増し得意を増加し「繁昌」を爲しつゝあるものは區内鶴岡町十六番地「三ツ鱗」印函館炭商合資會社なりとす其營業は木炭製造及薪なるも重なる商品は楓炭、小ナラ白炭にして出產地軍川村宿野邊村湯の川村赤川村鍛冶村へ社員を派出してよく品質を吟味しあるとは是れ全區の高評を受くる原因ならん

鶴岡町

○●能瀬商店

(能瀬三郎氏)

鶴岡町二十九番地交番所筋向角に屋上に丸豊洋傘製造との看板は能瀬商店なり「丸豊」は商號にして洋傘の製造は原料を精撰し其價廉なるのみならず精品なる此店の右に出づるなことの世評あり洋傘のはりかへ靴のなほしは特に勉強するとの評判あり

○松井萬籠製造所

萬籠類を製造し地竹一手販賣を兼ね日々繁昌を爲しつつあるものは鶴岡町七十番地松井萬籠製造所なりとす

100

同所主松井彌助氏確實なるを以て世に信用を博し勉強と低廉は同所の特長商號は「金イ」なり

○松山商店

松山商店は鶴岡町二十九番地に在り「丸松」は商號にして菓子製造卸小賣を業とし中々手廣き信用ある店なり

○三飯田商店

(飯田榮次郎氏)

若松町二十一番地にあり諸車並に農具一切を製造販賣して大に當港の信用を博せり特に修繕等の勉強なるは依頼者其者の言なり同店のため賞揚すべき事なり

若 松 町

○三田商店

(三田巳藏氏)

三田商店は若松町方面の有力家三田巳藏氏の店なり店舗は同町九番地に在り雜貨荒物を販賣し傍ら農事改良を企圖しあるもの故農産種苗和洋農具を製造販賣し漸次其目的を達せんとの意ならん實に記者も其企圖に賛成する處商號は「金三電信略號」ミタ(なりといふ)

有名なる商店の案内

101

海岸町

○日諸車製造所 (川口清三郎氏)

同店は海岸町三十八番地に在り「金七」は商號なり諸車及び萬金物類を製造し頗る信用ある製造所なり

○弘法主治薬湯本店

弘法主治薬湯本店は海岸町十八番地に在り馬車鐵道の便あるため日々の浴客多しと聞く同湯は子宮病、婦人經閉、小便不利、淋病、

水腫、腰痛、頭痛、腹痛、僕麻質斯、胃病、中風等の諸病には効能顯著なり
同湯の製薬は能登國鹿島郡越路村字石動山竹戸氏の謹製にして日本第一無比なる弘法除治湯なるものなり全道廣しと雖も札幌區に一箇所と當區海岸町にあるのみ當主齋藤多郎兵衛氏其の湯の功驗を知り薬湯業を行ふ又希望者には該薬を分配するの特許ありと聞く
同湯待遇は懇篤にして奢侈に流れず極めて質素と輕便とを以て専一と爲し年來の高評を博する所にして北海道には此種の薬湯數少なく且特効あるを以て名高し

○風間靈泉館

風間靈泉館は鱧淵町二十九番地にあり鐵冷鑛泉を販賣す

鐵冷鑛泉は肥前國小城郡多久村宮浦山仁田に涌出する鑛泉にして同館は北海道特約販賣店なり其効能の顯著なる他に比するものなし
効能 皮膚病、子宮病、運動器病、神經痛
其他の諸病によし

鱧淵町

○山本商店

(山本幸太郎氏)

山本商店は鱧淵町五十二番地(寮町に昇る海手の方)に在り商號を「金七」と云ふ呉服、太物類を鬻ぎ御石、一樂風通縮細斜子紬、木綿、縞、雙子、瓦斯、絲入、手、ル、メン、子、ル、等品質を精選して低廉に販賣するより評判宜く區内遠近の顧客は多く同店に出入し其他大津帶廣根室地方より同店を指して來集せり斯の如く日を逐ふて盛大に赴き今は區内有數の呉服店なり

富岡町

○函館毎日新聞社 (寫眞版参照)

同社は初め内洞町一番地に置き明治十一年一月七日毎五日隔定期にて函館新聞初號發兌す當時社主渡邊熊四郎氏印刷人伊藤鑄之助氏なり

同七月二日より隔日と改たむ、十二年十二月の大火に延焼に罹り一時地蔵町馬車會社内に移て發兌す、十二年五月十日富岡町五番地(現今の箇所)に本社の新築成り移る後ち渡邊氏社主を罷め伊藤氏社を引受く二十年より日刊

と改め二十二年中より大に紙面を擴め體裁を改たむ三十一年社を伊藤力松氏に譲り本社を改築し再び紙面の改良を圖り題號を函館毎日新聞と改む其論說記事の確なること講談小説の快なること經濟商況の精なること電報探訪の敏なること發行紙數の多きこと信用のあること東京以北第一位なりと聞けり

○齋藤商店

(齋藤伊藤氏)

齋藤商店は富岡町八番地にあり商號を「令」と

稱呼し合資會社メリヤス商會の製造に係るめりやすを一手販賣し當港著名の商店なり同店はめりやす類を蒐集し必ず舊習に泥まざる様注意し嶄新なる流行品を撰で來客の好に應ずるを勉むるが故に廉價と勉強とは常に他店の一籌を輸する所にして益繁昌の景況を見るは同店の將來に於ける盛況を下するに足るべく誠に同店の爲に喜ばしき事と云ふべし

會所町

○井上銃砲店

(高尾版参照 井上源助氏)

井上銃砲店は會所町五十七番地に在り其營業は銃砲火藥等にして中々勉強の店なり而して其販賣の銃器はよく新式の堅牢なる命中の正確なるも價格の低廉なるとは大に愛銃家の賞賛を博し地方顧客の信用日を追ふて盛なり其種類は左の如し

- 英國製新式二連獵銃
- 同 新式無雞頭二連獵銃
- 同 施條入新式二連獵銃

英國製雁鴨討二連及單身銃

同 新式單身獵銃

同 新式スラッキ銃

佛國製新式三連獵銃

同 新式無雞頭二連獵銃

同 同 上下二孔單身銃

同 同 七眼獵銃

米國製六連雁鴨討獵銃

同 新式單身安全獵銃

同 猛獸討十五連發獵銃

同 單發連發射的銃類

同 少年用單發連發空氣銃

同 內國製村田式獵銃

同 名譽安全村田獵銃

○田本寫真館

田本寫真館は會所町に在り本港著名の寫真館なり

同館は開業以來茲に三十四年一時は多數の同業者を出して之が競争の渦中に立ちしも常に優勝の地にありて益々修練の功を積み遂に能く他を制して今日の成功を見ることを得たり

館主田本研造氏特に技術に長じ更に非常の熱心家なり然れば眼鏡器械の如きも大小數種の準備ありて小は手札形より大は全紙形に至る迄撮影自在にして不變色は其特色なり故に紳士令嬢美人を通じて多く同館に出入するを例とせり盛なる哉

- 內國製安全クリーナ式
- 同 安全速射獵銃
- 同 改良杖銃及傘銃
- 同 工事用ダイナマイト類
- 同 坑山用火藥及導火線類
- 其他附屬品各種

○松岡印判彫刻所

同店は會所町四十番地に在り印版彫刻を以て業とす本港同業者中第一流の有名なる店なり

有名なる商店の案内

因に誌す、同館にては寫真銅版及び寫真硝子膠版の製版印刷をも爲す是れ本道に於ける斯業の嚆矢なりとす

○土谷商店

會所町三十四番地に在り商號は「三ツ輪」なり營業は雜貨商にして其重なるもの、和洋酒雜貨、荒物雜穀地玉子等を販賣す同店は能く客に親切に叮嚀なるため汎く區内に得意を有せり

○小出和洋洗濯所

小出和洋洗濯所は會所町五十一番地に在り和

洋洗濯を以て業と爲す
同店主小出龍太郎氏はよく期日正確迅速勉強を本旨とせるため大に依頼者の信用を受け店頭屋上共に張り詰め日々繁昌し居るなり

○東洋堂菓子老舗

東洋堂は會所町五十三番地に在り食麵麴洋式菓子及び麵麴菓子を卸賣業とし菓子老舗の名高し明治二十八年七月第四回内國勸業博覽會に洋式菓子を出品して有功三等賞を受く本區各地に無敵の取次販賣店を有する確實なる菓子老舗なりとす

○福井旅館

(寫真版参照)

丸大旅館は會所町十二番地にあり本港第二流の旅館にして丸大は通稱なり

本館は本港の中央なる八幡坂の中段にあるを以て巴港數千の船舶を眼前に控ひ風景絶佳加ふるに室内清潔なると器具の整備せると待遇の親切なるとは同館の特色なりとして世人の稱賛する處なり
女將は温和なる美人にして能く世道に通曉し益々營業を擴張し遠らざ改築するとの計畫ありと聞く今や函樽鐵道の布設ならんとの期に際し斯業の爲め賀すべし同館は明治二十七年の開業なれども其位置が郵便電信局警察署諸

有名なる商店の案内

銀行各商店の附近にあるを以て旅客の便利少からず爲に日々繁昌推して知るべし

○蕨谷銃砲店

(寫真版参照)

近年銃獵の流行に連れ銃砲製作上に變革を來し英國製と云ひ米國製と稱へ互に競ふて精巧を凝らし流行を作り嗜好を惹き或は優美高尚に或は瀟洒風流に幾多精巧美妙堅牢の製造を爲すに至りたり故に優等品より扱は實用專一の堅牢品に到る迄其品種の幾百なるを知らずと雖とも悉く之れを具備して以て愛銃家不時の需に應ず其規模大にして業務の隆盛なる販路の廣大なる北海道の銃砲店として巔然と頭

會 所 町

角を顯したるものは當港萬谷銃砲店なりとす
同店は會所町三十五番地にある宏壯なる二層
樓の土藏造にして其商品の豐富なるも品質堅
牢低廉勉強販賣は同店の主眼なりとの高評を
博せり其重なる商品は左の如し

- 英國製新式二連獵銃
- 同 新式無雞頭二連獵銃
- 同 施條入新式二連獵銃
- 同 雁鴨討二連及單身銃
- 同 新式單身獵銃
- 同 新式スナツキ銃
- 佛國製新式三連獵銃
- 同 新式無雞頭二連獵銃
- 同 同 上下二孔單身銃

- 佛國製新式七眼獵銃
- 米國製六連雁鴨討獵銃
- 同 新式單身安全獵銃
- 同 猛獸討十五連發獵銃
- 同 單發連發射的銃類
- 同 少年用單發連發空氣銃
- 同 內國製村田式獵銃
- 同 名譽安全村田獵銃
- 同 安全クリーナ式
- 同 安全速射獵銃
- 同 改良秋銃及傘銃
- 同 工事用ゲイナマイト類
- 同 坑山用火藥及導火線類
- 其他 附屬品各種

一一〇

相 生 町

○浪月堂

(藤岡和氣次郎氏)

浪月堂は相生町堀川學校の隣にあり古本賣買
を業とす
同店は傲倨沈黙是本領、注意店則ひやかし三
十分限りと、標榜し到て無遠慮無愛嬌なるも
のゝ如し然れども學術的に關する教科書乃至
中等教育的參考書及小説雜誌等を網羅して選
儲をからしめ以て價格を廉にせり故に信用厚
く店頭何時も顧客を以て充たさる是れ區内古本
商の巨擘なり

有内名なる商店の案内

○日新堂

天下の有ゆる新聞雜誌を逸早く輸入して區内
は勿論北海全道の顧客を満足せしめ其配達の
神速なること電信の如し店主は井上政吉翁に
して新聞雜誌の間屋として大勉強の評判高し
營業所は相生町六番地なりとす

○丸北分店

丸北分店は相生町十五番地にあり惠比須町丸
北の分店なり
同店の生壽齋は達街一體及進入軍往復の兵糧
に充てられ日々繁昌し居れり

一一一

○き かもじや

(鈴村儀之助氏)

丸きかもじやは相生町十六番地に在り商號は「丸き」なりかもじ製造を以て其名高く注文遠近より來り日々繁昌し居るなり

○中 燒麩製造所

(中川武右衛門氏)

丸中燒麩製造所は相生町十八番地にあり其營業は燒麩生麩を製造販賣し傍ら越後白米砂糖の卸小賣を爲す
燒麩は區内及遠近の漁場へ輸出し販路尤も廣し越後白米は評判よく區内の需用者に販賣す
同店の商號は丸中にして信用ある確實勉強な

る商店なり

○石塚材木店

石塚商店は相生町六十二番地に在り商號は「東」と(東は草書にて用ふ)稱呼し材木の卸小賣を爲し傍ら土木建築の請負を爲す
同店は材木の豊富なる當港同業者中の屈指たり土木建築工事の請負は手廣くして全道に及ぼす勉強と低廉なるとは同店が受くる世評なり

○源 商店

丸源商店は酒類製造を營業し最も確實の商店にして相生町五十六番地にあり

○夕 印津田商店

夕印津田商店は相生町五十八番地に在り夕印は商號にして函館要塞砲兵大隊兵器支廠築城部及諸官衙の御用請負を業とす
同店は多年斯業に従事し確實を以て主義とするが故に公私共に信用を博し居れり特に同店主津田昌氏夙に慧敏の聞あり時勢の變遷に隨て益々斯業上の改善を講じあるを以て業務

有名なる商店の案内

の進歩は一頭地を顯出し現今區内幾多の同業者ありと雖も同店に匹敵する者を見出す能はざるなり

○精養軒

(寫眞版参照)

精養軒は上等菓子商の内當港屈指のものにして老舗なり相生町百一番地にあり常に斯業の進歩を計り風味の優等なるを以て他を凌がんとし其製法の上品なる風味の高尙なる容易にその比類を求め難し就中優等天狗ビスケットに至りては同居の最も得意とする處にして舶來品も三舍を避くべく其製造する所はカステラ、西洋菓子類各種ビスケット等なり

相生町

主人杉村米藏氏日夕意を改良に用ひ今や鐵詰類の製法を攻究し製造所を設け盛に之れを行ひつゝあり(製造所の寫眞参照せられたし) 同店は共進會や博覽會等の品評會に自製の菓子を出品して賞狀を得たることを枚擧するに遑あらず

同店は華客に對し丁寧と親切なると製品の風味優美なるを以て頗る評判宜し

○丸大餅屋

丸大餅屋は相生町十七番地にあり柏餅元祖を以て名高し近來鋭餅搗直しの事を發明して益々好評を博し居れり

一一四

大 黒 町

○北海道日新聞社

(寫眞版参照)

同社は大黒町五十五番地にあり新聞業と活版印刷業とを兼ね

同社發行の北海道日新聞は北海道中唯一の無休刊新聞にして誕生日淺しと雖も健在に發育して世に獨立獨歩 議論公平 趣味饒多 商况確實 報導迅速なりとの高評を博せり 社主川上嘉吉氏は漸進堂と號し活版印刷の業に富み年來頗る聲名を博す却て號名の漸進堂なるものは人口に膾炙する處なり特に熟練な

有名なる商店の案内

る職工ある爲め意匠最新、印刷鮮明なるは最も長ずる所にして區内幾多の商店の印刷物は

一に同社によるものゝ如し

同社は勉強と眞實を旨とするが故に信用益々厚きを加へ日一日に隆盛の域に進みつゝあるなり

○桐屋第二支店

(上田雅吉)

大黒町八十三番地にあり末廣町桐屋商店の第二支店なり傘履物其他諸紙煙草類を販賣し廉價と親切は同店の得意にして世評よく界限は同店より皆備む商號は「全」なり

一一五

○**世**そばや

(山崎松五郎氏)

丸北山崎そばやは大黒町五十一番地に在り御膳きそばを以て有名なり特に蘭切白蘭黄蘭五色黄上籠並に橋玉小田巻むしは同店の特長なりとの高評なり

○成田商店

同店は大黒町百一番地にあり和洋酒類卸小賣を以て廣く花客の知る處にして店主の懇切營業の勉強は世の信用を受く商號は「金二六」にして其名著るし

○**一**支店岡田そばや

丸一支店岡田そばやは大黒町交番所隣り角にあり有名なるそばやなり
店主岡田吉次郎氏平常顧客の待遇に懇切に町噂なるを以て信用を博し至る所同氏の注意周到なるを賞揚せざるはなし
同店が製造する所のそば類は原料のよきものを用ゆると其美味なるは高評を受くる基にして區内遠近より同店を指して來集するもの多く日に繁昌を極め居れり

青柳町

○函館日々新聞

(寫眞版参照)

函館日々新聞は明治二十七年一月北のめざましと稱する題號を以て發刊し同三十一年七月に至りて函館日々新聞と改題し爾來幾多の變遷を経て屢ば刷新改良を加へ漸次隆盛に赴くと共に發行紙數は益々増加するに至れり而して紙面記載する所は政治經濟教育工商等社會萬般の事項を網羅し又小説講談等の趣味津津たるものありて頗る多方面に涉り殆ど遺漏無きものなり發行所は函館區青柳町五十五番地なり

有名なる商店の案内

春日町

○蜂谷商店

蜂谷商店は春日町八番地にあり地所仲買を業とする確實なる商店なり

寶町

○丸山商店

(丸山今朝蔵氏)

寶町一番地即ち寶町學校の向にあり「金正」は商號なり味噌を製造し其精撰なる廉價なるは他店の及ばざる處なり

○熊谷商店

(熊谷藤助氏)

當港遊園地前の粉屋といへば同店の事なり番地は寶町一番地なり粉類製造を以て本業とし

有名なる商店の案内

区内の需用者は多く同店よりこれを需むるを以て其名高し

○幸床

(金谷幸治郎氏)

幸床は新藏前巴座の向角に(寶町二十三番地)に在り勉強なる理髮店なり

○幸村木米店

(村木香司氏)

寶町二十六番地(新藏前山一ノ向)にあり商號を「上山キ」と云ふ主人村木氏能く質直にして隨て商法上も又直なり故に同店の米は精撰なるものゝみを買出し界限は勿論遠く区内

に得意を有せり

○清水商店

(清水和作氏)

清水商店は新藏前巴座の向角に在り(寶町二十三番地)洋燈、硝子器、其他種々なるものを販賣し商號は「○」と稱す
同店は四季共に人の群集する好位置にあるを以て日増盛大に赴きつゝある確實の商店なりとす

○小山塗物店

小山塗物店は寶町三十四番地に在り商號は

「一〇」と稱し和洋塗物を業とす

同店は熟練なるため其精巧なるは世の信用する處にして確實なる塗物店なり其種類を舉ぐれば左の如し

- 本堅地 膳椀 會席膳 建具 箱物
- 一閑張 諸看板 金銀蒔繪 佛壇修繕
- 其他ペンキ塗

○靈泉館

靈泉館は本年六月鮎瀬町二十九番地に假浴場を設けて患者の便宜にまで開きたりしが爾來効顯の著るしきを知れたるため業務を擴張し同十月寶町一番地舊小安冷礦泉湯跡を譲り受け

て今のところ即ち遊園地前に移りたるものにして

して銀冷礦泉浴湯の効能は

皮膚病、子宮病、運動器病、神経痛、

其他の諸病

以上の諸病に効能顯著なると來客に接する親切なるを以て開業日淺しと雖も区内至る處高評を博し浴客遠近より來り何時も絶ゆることなく以て其盛なるを知るべし

東川町

○盛館舎

(寫眞版参照)
小菅久藏氏

盛館舎は東川町(二百四十二番地)函館電燈發
電所の向にあり晒館、片栗の製造販賣を業と
する著名なる製造所なり
晒館の名稱は八雲軒と名付く後改めて盛館舎
の舍名を付する事となりたるものにして日本
全國に於ける製館者の元祖なり抑も晒館の製
造は遠く明治十六年八月に始りたるものにし
て爾來十有餘年の今日に至る迄種々の變遷等
ありと雖も當主小菅久藏氏の熱心は百折不撓

の忍耐方と勉強力を増進し遂に之を刈鋤し時
勢の變遷に伴ふて製品上に改良を加へ原料を
撰擇して品質を精良に價を廉にせり又蒸氣機
關を据付けて人力を省く等其經營上に於ける
苦心慘憺は如何に斯業を啓發し如何に發達に
裨益を能へたるか數頁の能く盡す處に非ず故
に氏が製館事業上得たる賞與を左に摘記して
以て其一斑を示す

明治十八年十一月根室縣北海道物産共進會
に出品して二等賞を授與せられたり
同二十三年七月第三回内國博覽會にも三等
賞を授與せらる
同二十五年八月北海道物産共進會にも銅牌
を受く

あると云ふに至りては亦盛なりと云ふべし

○樺木諸器械製造所

丸カ諸器械製造所は東川町百六十七番地に在
り諸器械を製造し商號は丸カなり
當主樺木仁三郎氏よく職業に勉勵す自ら諸事
に執筆し熟練なる職工は同所を補助して常港
に信用を博し勉強と精巧なるは同所の高評な
り

○千葉重吉氏

千葉重吉氏は居を東川町百六十八番地に卜す

同二十七年六月富山縣富山市に於ける市設
博覽會にも銅牌を受く

同二十八年第四回内國博覽會にも銅牌を受
く

以上は晒館に對し受くる處の履歷にして本道
著名の物産として世に賞揚せらるゝに至れる
は實に氏の名譽とは言ふものゝ本道物産の爲
に賀すべき處なりとす
而して同舎製造の晒館及片栗は需用者の嗜好
に適するを以て世上に高評を博し日に月に販
路を擴張し本道各地は勿論東京横濱神戸大阪
新潟馬關秋田仙臺青森等に輸出する事夥し
く爲めに各地よりの需用を充たすこと能はず
して時に之を謝絶するが如き好況を呈する事

有名なる商店の案内

内 案 館 函

(東川町學校の向角)目下實業に従事せる傍ら
 賣藥を業とし氏の賣藥は普通のものと同視
 すべからざるものなり
 氏の發明に係る臘臍丸なるものは極寒中に
 捕漁せる臘臍を主とし夫れに氏の自家傳來
 秘方の靈藥を配劑せしものにして醫學進歩の
 今日に於て其藥物生理に適應し實効の確實顯
 著なりとの世の高評にて滋養品として用ゆる
 もの又藥劑として用ゆるもの區内は勿論全道
 各地より陸續として注文來り日々配劑に多忙
 なりと云ふ氏は北海道賣藥發明の元祖にして
 衰弱者の救世主として賞揚するも敢て過稱に
 あらざるを信するなり
 因に誌す 同氏の發明に係る賣藥を左に紹

介すべし
 臘臍丸性能 元氣強壯 血液進運 滋養
 機能 精神活潑 健胃強肺 腎精増補 身
 體溫養 強骨肥肉 精蟲造化
 水毒萬能刺號散
 主治要領 脚氣痲病消渴小便不通婦人產後
 の腫病

○星野工場

(星野熊五郎氏)

星野工場は東川町二百八番地に在り萬鐵物鑄
 物製造販賣し確實なる工場なり

○釜和洋鑄物製造所

(中村藤吉氏)

中村鑄物製造所は東川町二百十八番地に在り
 商號を「内山藤」と呼ぶ(藤は草書なり)
 同場は諸器械整理し熟練なる職工を有し和洋
 鑄物製造所にして其營業上の確實と取引の手
 廣きは當港營業者中屈指にして最も信用の厚
 き製造所なり

世評あり

○松島屋商店

東川町二百四十番地に在り松島屋は屋號商號
 は丸松を以て主人萩原竹三郎氏は温厚なれど
 も能く事理に長じ嶄新なる掛物菓子を製造し
 て卸商を營む雇人夥多を使用し其販路尤も擴

○關材木店

東川町五十番地に在り主人松木榮太郎氏は専
 ら建築請負を業とし頗る信用あり材木類は各
 産地より直接買入れ薄利を以て販賣するとの

有名なる商店の案内

○東京庵

(二ノ谷八太郎氏)

東京庵は東川町二百四十一番地に在りきそば
 を以て有名なり

内 案 館 函

○刃味噌製造所

(寫眞版参照)

金久宮崎竹四郎氏は新潟縣越後國北蒲原郡荒川村の産にして味噌製造所は東川町二百三十八番地に在り宮崎竹四郎氏之を營む氏斯業に經驗を重ねる事年あり爲に其製造の精巧なる能く他店の及ばざるところ其品質最良にして其價格の低廉なるは幾多の需用者に好評を博したる所以なりとす

凡て製造業は其經驗と其原料の撰擇と相待て始めて精品を製出すべきものにして如何に經驗ありと雖も原料の撰擇に意を留めざれば能はず如何に原料を精撰すと雖も其經驗に乏ければ又能はざるなり同店は即ち此二者を兼

ぬる者にして精品の評ある亦故なきに非ざるなり而して世の信用を博すると共に同店が之に酬ゆる處あらんとて益々品質を精良にし確實と勉強とを旨とし業務を勵むが故に本道各地よりの注文續々來つて日々繁昌せり

○刃小林商店

小林商店は東川町百九番地に在り商號は「金久」と唱ふ片栗、雜穀、晒箔等卸賣を業とす店主小林喜一郎氏能く商運あり片栗晒箔の輸出は大阪東京横濱等に漸次増加し雜穀の販賣は區内需用者に普及す是れ低廉勉強の結果なりとは言ふもの一は商運の然らしむるも

○成田商店

成田商店は東川町二百九番地に在り醬油醸造を營業とす

同店は區内至る處に販賣店を設け需用者の便宜を圖れり

同店は勉強廉價販賣を以て世の信用を博せり醬油の商標は「丸富」、山形に富なり

○支店

山メ支店は東川町五十二番地にあり開業日淺しと雖もそば、牛なべ、鳥なべ、の調理中々よく何時も繁昌を極む

同亭そばの原料と職人は東京より呼下じ居るため萬事都合よく特に主人の上田氏は年來の經驗者なるため華客にも職人にも懇切なるため内外共に信用を博し當町附近の流行店なり實に賀すべきことなり

○函館製紙合資會社

同社は東川町函館電燈發電所の向にあり製紙の業を營む資本金壹萬圓にして確實なる會社なり

○天下の號外

(信濃助治氏)

氏姓は源祖先信州松本信濃守の後孫但馬守奥州牡鹿郡に下り其子兵馬開墾事業に従事し世々石巻に居住し蛇田袋谷地高屋敷各村を成功し其後信濃忠左衛門となり是れ則ち氏の先祖なり故ありて明治二十七年六月十一日函館に來り東川町二十七番地木賃宿中者傳次郎方へ宿泊し此時囊中六錢貳厘五毛の財あるのみ而して其間十日餘何等爲す處なし八月十四日末廣町邊の某家葬禮人足に履はれ金貳拾錢を受く其内貳錢を寔錢に費し殘拾八錢を以て北のめざまし新聞(今の函館)二十部を仕入十六日より行商を始め後會所町日新堂及び愛新軒等

に就て東京新聞を仕入一日二百四五十部の賣高に達したり同年九月二十八日より二十九年六月十九日まで北海新聞號外を賣ること久し故に天下の號外屋の字名之れに依て始り且つ小野凱旋居士の戰勝紀念五大幅に評證せられたる文に曰く

君姓信濃名助治字名を號外屋と稱す行商雜業を營み精勵勉強するを以て三歳の兒童と雖も其名を知る明治二十七八年清國と釐を啓くや北海新聞の號外を賣らんとを欲して其業に就き出征軍人と困難を共にせんことを熱望し兵風帶劔飾を騎し祁寒に堪へ隆暑を凌ぎ晝夜を別たす美聲を枯して輕々薄々たる利を得之を貯へ進んで陸海兩軍へ獻納す其志誠に美譽

と謂つへし而して出征軍人の凱旋するや一々之を迎へて歡迎の列を盛大ならしめたるは獨り地方諸君歡心を得たるのみならず苟も言行同一乘の模範たるを表示す當區開港以來年尚ほ不淺と云へとも未だ曾て君あるを知て他に奇人あるを知らず故に爲貴下紀念として識矣明治丁酉春正月元旦而して氏商家の廣告を以て專業とし平素の薄利を貯へ三十二年三月二十七日業閉に乗じ戰勝紀念五大幅を脊負上京して名將大臣以下を訪問し揮毫を乞ひ同年六月二十七日歸函後ち函館展覽會に陳列す上は野津將軍桂大臣伊東海軍大將柴山海軍中將川村中將西中將立見中將山内少將岡村少將の篆額等にして其掛物は下士卒自筆より成れる二十七八年戰

役從軍者の功蹟を永遠に傳へんが爲め西奔東走苦身慘憺三箇年に及べり依て戰勝紀念五大幅と稱し同家累代の重寶として秘藏す氏又函館慈惠院入院患者に對し感する所あり慈善牛乳と稱し牛乳を販賣し毎月賣高の十分の一を該院に十分の五は全區貧民に惠贈して廣く慈善主義を旨とす氏營業に粉骨齏身し今や漸く宿志の幾部を達し日増隆盛に趣く實に賀すべき事なり

有名なる商店の案内

西川町

○久染工場

山久染工場は西川町十四番地に在り場主徳永寅之助氏は斯道の熱心者にして寢食を忘れてよく研究を極む綿絲、絹絲、反物地、模様染、友染、更紗形、小紋形、に至る迄染業一切を盡して遺憾なく規模頗る大なり然れば区内各呉服太物店よりの注文物も大手口之を引受け婚禮物其他確實にして精巧を盡し益々好評を博して四時作業に追はれつゝあり

○高諸車製造所

西川町六十一番地にあり「金高」は其店の商號なり同店の諸車製造用の原料はよく精撰しあり他店製造の車に比し徳用あるとの世評なり而して出来期日の正確なるはよく同業者中稀なるとの事なり

○吉川商店

(吉川藤市氏)

西川町九番地にあり大黒屋は屋號商號は「外」と稱し菓子掛物を製造するを業とし評判のよき店なり

○南場商店

南場商店は西川町六十九番地に在り米穀雜貨片栗の卸小賣を業とし
同店は商號を「南」と稱し確實と勉強なるは當港同業者中屈指の商店なり

○能登川商店

(高良坂全照
能登川巳之助氏)

能登川商店は宏壯なる二階造りの建物にして西川町五番地に在り牛鶏肉の卸小賣と料理店を兼業す商號の「能」は却て人口に膾炙する處にして有名なる牛肉店なり樓下の牛肉販賣所は當港幾多の需用者と數百の營業者とに卸及

有名なる商店の案内

小賣を爲す

料理は樓上大の廣間にして牛鶏肉を販賣す其價廉直なるを以て朝より賑ひ夜の十一時頃まで顧客を絶たず紳士紳商令園令嬢下女男に至る迄美醜打交はりて年中時ならぬ花の山を築く程の光景を呈す其隆盛なる事推して知るべし

同店は顧客の便宜を計り東濱町三十四番地に支店を設け能登川第一支店と稱し本店同様の營業を行ふ

同店が斯くの如く隆盛に進みたるは常に誠實勉強なるを廉直にして待遇の懇切なるとは大に信用を博したる起因にして實に区内營業者中の巨擘と稱するも敢て過言にあらざるを信

するなり

因に誌す 同店牛乳部は船見町百四十六番地に在り能登川第二支店と稱す

○小林鐵工場 (小林六三郎氏)

小林鐵工場は商號「丸巳」と稱し西川町四十八番地に在り鐵工場としては當地に於ける有名のものにして其營業向の確實なるを取引の手廣きは同業中の巨擘と稱すべく器械一切は修く備はらざるなし誠に手堅き工場なり其製造の重なるものは倉庫扉、和洋農具、澱粉器械、諸鐵物等なり

○田中時計修繕所

田中時計修繕所は西川町八十一番地東川小學校向通り角より二軒目にあり修繕料の低廉なる迅速なるは同店の特長なるを以て華客に信用を博し居れり

○岡茅原商店

今の世は小資のもの他店の業務の繁昌を羨み奸商一夜づくりの味増を製し名譽ある店のへ一バを張りつけて賣出し巨利を貪るものあり實に顧客方でも油斷のならぬ時代にこそ然れども當港西川町百一番地商號角吉茅原商

店醸造の味増醬油の評判よく區内は勿論本道各地までも賣行くと云ふは同店多年の經驗上より醸造法に注意を加へ製造方法其宜しきため調味等の憂なく永く貯藏に堪ゆるとの事是れ即ち奸商等の惡習を脱却し天然の自然味増精熱の醬油なるを以てなり其味増醬油の商標は「○」にして頗る高評を博せり

有名なる商店の案内

音羽町

音 羽 町

○諸車及萬金物類製造所

諸車及萬金物類を製造販賣し顧客の希望に
應じて熱心に誠實に營業を爲しつゝあるは音
羽町十四番地太田忠吉氏とす商號は「丸太」を
り

眞 砂 町

○平 商 店

平商店は眞砂町頭に在り其營業は煉化、屋根
瓦類、土管類、網足、下廻、石灰を製造販賣
す
工場は龜田郡龜田村大川通りに在り工場の整
理と熟練なる職工を有するは同場を措ひて他
に非ざるなり
同店は原料を精撰し品質の佳良なるものを製
出するに務む爲めに同店の製品はよく持久に
耐ゆるもの高評にて世の信用を博し日々隆盛

有名なる商店の案内

に赴きつゝあるなり

○金 鐵 工 場

(大本松太郎氏)

大本鐵工場は眞砂町五番地なり商號を「内山
本」と稱呼し萬鐵物類器械製造を業とし船の
諸器械は多分此工場より製出す

大森町

○田宮造船場

田宮造船場は大森町三十番地に在り「九大一」は其商號造船其他船具一切を製造するを業とす
造船は其製作の善悪により人夫の數を上下するもの故需用者も亦撰ばざるを得ざるものなり
田宮造船場の製作に係る漁船は原料の撰擇職工の熟練と製作上の研究を極めたる爲め使用上人夫の數を要せずとの事區内漁業家の高評

あるため遠近各地より注文陸續來り毎年千餘艘の漁船を造る其繁昌なる推して知るべし
同場主人田宮松太郎氏熱心に營業に従事し需用者の便益を計り船具一切の製作にも需めに應ずるといふ

沙止町

○小口石版印刷所

同印刷所は沙止町二十一番地にあり石版印刷を業とす
同店主小口寅次郎氏は石版印刷の術に長じ年來の信用を博し明治三十三年の晩秋同所に業を開き自ら職工を督勵し其任に當る其印刷の精巧美術なる意匠の嶄新なる料金の低廉なる多く其比を見ざるなり

○市原商店

(寫真版参照)

市原商店は沙止町にあり商號は「金長」といふ同店は此附近に於て稀に見る所の雜貨店にして販賣の品種は舉て數ふべからず先づ煙草類あり、石油あり、和洋酒各種あり、罐詰類あり、食鹽あり、各國紙類あり、和洋砂糖類あり、蠟燭あり、傘類あり、蔬菜菓實類あり、味噌醬油あり、其外の雜貨は堆積殆ど山を爲し日用必需の物品は殆ど扱はざるなき商店にして貨物の輻輳する顧客の雜踏すること以て同店の隆盛を知得べし

○丸一藤井支店 (寫眞版参照)

丸一藤井支店は沙止町二番地にあり有名なるそばにして鶴岡町丸一藤井の支店なり

○養和軒 (寫眞版参照) (平田常治郎氏)

養和軒は沙止町二番地にあり西洋菓子ビスケット、食糧飽各種を製造販賣す
同町附近に於ける西洋菓子製造者は同店の外にあらざるを以て特に販路廣く日々店頭顧客の絶ゆる間なし

○国吉川商店 (寫眞版参照)

吉川商店は沙止町二十番地に在り角丁二は商號なり其營業種類は

米雜穀 海産物 片栗粉 味噌
醤油 軸木

等にして其中重なるものは 米穀 片栗粉 味噌 醤油なり

米穀味噌醤油は本港は勿論本道各地に販賣し角丁二として其名高し

總田郡大中山村附近の溪流水質善良なるを探見し同所に片栗澱粉製造水車器械所を設置し盛大に製出し品位優等にして他店製のもの遠く及ばざるなり其販路は全国各地に輸出す其

港沙止町二十四番地黒田商店なりとす

○函館魚商株式會社 (寫眞版参照)

同社は沙止町にあり海産物委託賣買を業とする確實なる會社なり

○水戸商店 (水戸東藏氏)

水戸商店は沙止町魚市場内に在り氷卸小賣海産物委託賣買を業とする「一〇」は商號なり
氷は區内に卸賣を爲し海産物は神戸東京大阪横濱新潟鹽釜仙臺青森秋田酒田等に手廣く輸出する信用ある商店なり

○黒田商店 (黒田伴五郎氏)

丸一と云ふ商號を付し當港各商店は勿論近海漁場へ萬焼麩晒生麩を輸出し其價格低廉勉強なりとして信用を博しつゝあるは是れ即ち當

有名なる商店の案内

船場町

○西村商店

(西村馬太郎氏)

同店は船場町にあり「丸西」は商號なり本業は建、干、荷造、敷むしろ、苦、臥類、實子網、黄網、春、草鞋、薄べり、網羽繩、樽繩、土木、大間、中間繩、味噌、醤油、桐油、を販賣し傍ら海陸物産の委託賣買を行ふ区内屈指の荒物商店なり

○服部商店

同店は船場町にあり海陸物産委託賣買商の巨擘にして商號の一鱗は人口に膾炙する處なり又東濱町に商船部を置き汽船回漕の業を行ふ頗る手堅くして信用最も厚し

○函館汽船株式會社

同社は船場町にあり運送業を營む創立は明治十九年三月にして資金拾萬圓なり

惠比須町

○常野支店

(寫眞版参照)

常野支店は惠比須町角にある店にして本店同様諸國の銘茶及茶器類一切を販賣す本店は大町せに印なり

○分關川商店

(寫眞版参照) (關川嘉三郎氏)

同店は惠比須町角にしてメリヤス、シャツ、帽子類、ハンカチーフ及革製靴類其他附屬品一切の卸小賣を業とす

有名なる商店の案内

メリヤス類は東京日本メリヤス製造株式會社と特約を結び北海道一手販賣たるを以て其種類の多く幾十種なるを知らずハンカチーフ、帽子類其他洋服附屬品の如きは何れも時々刻々流行の變化を來すが常なるを以て斯業に従事する人は取分け商機に敏ならざる可らざるなり故に同店主關川嘉三郎氏は能く心を用ひて仕入を吟味し各得意先の便利を計るに努むるが故に信用の度を高め各地取引先は勿論當區幾多の需用者よりの注文非常に多く日夕殆ど間斷なきの姿勢を呈し將來有望の商店とす

○常野紙店支店

常野紙店の支店は恵比須町十五番地にあり内
外國紙類及諸帳簿類の製造販賣を業とす
同店は大町錢一印常野嘉兵衛氏の支店なるを
以て詳細の事は本店の方にて述べたれば参照
せられたし

○浅見商店

(浅見真雄氏)

浅見商店は恵比須町第一勘工場内(土人細工
の眞景は寫眞版参照)に在る商店なり
同店は勘工場右手より入れれば左傍に饒多なる
和洋小間物と北海道名産の土人細工物を陳列

し上には商號「丸越」浅見商店の金字看板は笑
顔を以て華客を迎ふるものゝ如し先づ一二を
摘で四方の諸君に案内せん

近時流行が頻繁なる變遷を爲すに伴ひて能く
各人の嗜好に適し而して又其流行に遅れざる
ことを注意するは殊に洋物小間物雜貨を取扱
ふべき商店の最も機敏を要すべき所なるが浅
見商店は夙に茲に着眼して何時も流行新形類
の仕入れを怠らず京、大阪より直ちに輸入す
るを以て有名なり其品數はメリヤスズル(シヤ
引ズル)洋服附屬品各種靴鞄並に弗入新形流行
帽子類各種

又土人の製作品は茶器、茶盆、手拭掛、バイ
ブ、下駄等の各種を蒐めて好事家の便に供せ

○千葉勝景氏

千葉勝景氏は居を恵比須町に卜す脚氣病治療
所を設け今盛に行ひつゝあり
氏は内外科學を修め而して細菌學を研究する
こと多年其淵奥を修む治療上特に得意とする
所は脚氣病にして刀圭の餘力著述に従事して
左の書を著したり
脚氣非死病辨、赤痢一週間療法
實用新纂細菌學、心臟疾患、特效藥發見記

○池田鹿之助氏

家相方位周易人相考を以て當港有名のものは

北海道名産物は先づサビタノパイプ、同ステ
ッキ、同ステッキパイプ、昆布パイプ等ある
とあらゆるものを備て以て需用供給兩間の聯
絡を計り贈答進物の便に供せり
同店商品の精良にして價格の低廉なるは暫く
言はず取引上用意の周到にして而して信用厚
く販路の區域の廣大なるは同場内多く見ざる
處にして是れ確實なる商店の價値を備ふるも
の繁昌も又其所なりと云ふべし
因に誌す 北海道名産物の土人細工物茶器
下駄及サビタノパイプ類は同店の獨占なれ
ば東京大阪等に輸出する物非常なりと聞く

惠比須町 一四四
惠比須町四十六番地神道修成派池田鹿之助氏
なりと聞く

○安齋商店

(安齋仁吉氏)

安齋商店は商號「金羽」として硝子器物板硝子
卸小賣を業とす。

同店は低廉勉強販賣するため其販路は當港は
勿論本道各地に輸出す賣高の如きは同業者中
優に冠たり店舗は惠比須町五十七番地に在り

○大阪門平支店

大阪門平支店は惠比須町三十七番地に在り商

○丸北本店そば

丸北本店は惠比須町二十番地(遊園地前)に在
り御膳生蕎麥を以て名高し本港にて丸北と云
へば三歳の童子も知る有名なるそばやなり

○丸柏そば

(石塚三五郎氏)

同店は惠比須町二十五番地に在りそばを以
て其名高く丸柏の名稱は知らざるものなし

○玉川軒

玉川軒は惠比須町五十八番地に在り菓子店な

有名なる商店の案内

○岡本商店

岡本商店は惠比須町五十九番地に在り商號
「山形に岡」なり大坂屋は屋號にして萬仕立物
類を業とす同店は低廉と勉強は世間の高評中
々隆盛の商店なり

其種類はビスケット、カステラ、センベイ、古
代カワラ、カステラ製カイマンヂウ、カル、
スモン、ベイ(御進物用)其他種々の菓子にして
勉強なる店なり

○三漬物店

萬漬物卸小賣問屋を以て有名なるは惠比須
町二十八番地佐々木商店なりとす商號「一ヨ」
と呼び区内に數十名の行商を出し日々繁昌し
居る同店の特得は精品を低廉に勉強販賣する
を以て名あり

恵比須町

○早坂商店

同店は恵比須町七十四番地にあり有名なる古
着古道具買入所なり商號は「山形にサ」にして
確實なる商店なり

○富田商店

富田商店は恵比須町二十四番地に在り商標は
「三ツ星」と唱ひラム子製造石版印刷養豚買
を以て營業とする確實なる商店なりとす

○勉強屋工場

勉強屋工場は恵比須町二十八番地にあり美術

一四六

書畫看板揮毫、調製廣告に屬する諸般の業務、
其他意匠考案等を業とす

同店は開業日尙ほ淺しと雖も看板揮毫の美な
る意匠考案の嶄新なるを以て華客の高評を博
し店頭何時も華客充満し日夕殆ど間斷なく業
務に従事し居るも足らざるの姿勢を呈す實に
本港一の流行店として賞揚するも敢て過言に
あらざるべし

○藤島商店

(藤島與太郎氏)

藤島商店は恵比須町六十五番地に在り蕎麥粉
を製造販賣し最も信用ある店なり

壽町

○福森商店

福森商店は壽町二十四地にある唐木細工和木
指物金銀象嵌桐丸火鉢等の細工所にして有名
の店なり

有名なる商店の案内

一四七

谷地頭町

○函館麥酒醸造所 (寫眞版参照)

函館麥酒醸造所は谷地頭町七十二番地にあり
麥酒を醸造す

所主金澤正次氏斯業の熱心家にして醸造法
に注意を加ふるなど確實を以て主義とするが
故に公私共に信用を博し居れり特に氏が平常
時勢の變遷に隨て益々斯業上の改善を講じつ
ゝあるを以て販路の擴張は日一日に進み一頭
地を顯出し現今函館ビールの名高し又夏期に
至ればビヤホール等を開きて需用者の便利を

計る蓋し同所の如きは其基礎確實にして虚飾
なく其業に熱心力行して誠實なる本道稀に見
る所にして同業者の依て以て模範とすべき價
値あるものといふべし

○淺田樓

四十年來の繁榮を以て有名なる料理店を淺田
樓と爲す當港稀有の料理店なり主として會席
料理を爲し其聲譽最も高く外國迄も聞ゆ年來
の特色として品質の精撰と其美味とは言ふ迄
もなく何人も能く知る所他店の到底企及すべ
からざる所なり其他器具の整備せる等感賞の
外なし

同樓は俗塵を離れて遠き谷地頭上にあり庭園
亦た幽邃にして築山あり泉水あり頗る雅趣に
富む其眺望の佳絶なる又以て他に誇るに足る
べし

○尾見牛乳店

同店は谷地頭町八十二番地にあり牛乳搾取販
賣を業とす
同店の乳牛飼養地は渡島國茅部郡鹿部村字小
川に在り其面積一百有餘萬坪土地高燥にして
空氣の流通宜しく最も乳牛飼養に適す現在の
飼牛は數百頭ありと聞く
同店主尾見干彦氏は斯業の熱心家なるを以て

有名なる商店の案内

牛種はアエシヤにしてチベルクリンを注射し
て其健康如何を診断し母牛の飼養より乳汁の
搾取等に至るまで注意行届きて飲用者の信用
を博し日々顧客の増加すること夥しく實に賀
すべきことなり

○百花園

(寫眞版参照)

百花園は谷地頭町にあり料理を業と爲す通稱
山田といふ
同亭の庭園は百艸を蒐む故に百花園と稱す夏
期に至れば皆同亭へ行きて遊ぶ其料理の新鮮
にして廉なる人氣を受く爲に都人士の一度當
港に來らるゝものは同亭に寄らざるはなし

小舟町

○函館味噌醬油製造所

函館味噌醬油製造所は小舟町（元臺場跡俗に辨天町埋立地と云ふ處）七番地に在り醬油味噌を製造す

同所製造の醬油味噌は専賣特許の醸造方法に據り學理を應用し特に原料品を精撰し食鹽の如きは悉く苦汁を除き注意の上にも尚ほ一層注意を要するがため其品質濃厚風味頗る佳良價格又廉價にして衛生上は勿論經濟上無比の精品なりとの世評高く販路日増擴張して區内

幾多の需用供給者は勿論本道各地の商店は同所より之を仰ぐに至れり而して同所の商標は「三ツ星」と稱呼す

龜田村

○佐野商店

（寫眞版参照）
（佐野定七氏）

佐野商店は龜田村七十二番地にあり醬油醸造を業とし商號を「可」といふ
同店醸造方法の嚴正にして器具器械の完全せるは北海全道中比肩するものなかるべく誠に多年の經驗によりて生み出されたるものなれば其醬油の醇良なる其風味の高尙なる均しく多年の成績に依りて得らるゝ同店の特色にして世に賞賛せらるゝも無理ならざる事なり世には奸商の徒多し一夜づくりの醬油に同店

有名なる商店の案内

の商標を貼付して鬻ぐものあるを聞けり需用者の深く注意すべき事なり

北海全道同業者の興廢常ならざる中に立ちて特り同店の能く隆盛を致す所以のものは自ら深く據るところなくんばあるべからず他なし熱心誠意以て任ずるの致す所なり然れば販路は遠く北海全道より内地各地へ輸出し其製造高も又年々増加して全道中恐くは同店の右に出づるものあるを見ざるなり而して同店醸造の醬油商標は左の如し
別製塲詰龜田佐上揚銘龜田佐上物銘サ中銘
因に誌す 同店は需用者の便宜を圖り豊川町一番地に醬油賣場を設け廣く販賣し居れり該賣場の寫眞版参照せられたし

蓬萊町

附東西遊廓及見番

○西洋料理北榮軒 (寫真版参照)

北榮軒は蓬街百五十五番地に在り西洋料理を以て名高し同軒は元丸市朝日樓と稱せり人身賣買を基礎とせる娼妓制度を遵守して今日其賤業に心を安ずるは實に嘆息なりとして急に抱へ娼妓を開放し人権尊重の標本者として當港に名を知られたる市村卯之助氏の營業なりと知るべし

同軒は規模大にして客室多く従つて其清潔なると器具の整備せると待遇の親切なるとは同

○大萬

蓬街の大萬といへば生そばを以て有名なり武藏野樓本店の右角即ち蓬萊町百三十番地にあり蕎麥の原料及職人は東都より呼下し諸事を取扱はしむ本港での屈指なる店なり同店は華客に對し親切なるとは一般の高評ゆゑ一度蓬街に足を入れたる粹も不粹も同店へ足を枉げざるものなし故に日々の客十百千萬

店なり

○秋南質店

(秋南長太郎氏)

秋南質店は蓬萊町三十一番地にありて丸トと云ふ從來質營業を専らとし最も手堅く低利に貸付をなす殊に懇切丁寧なるがため信用厚く確實なる店なり

○萬庵

萬庵は蓬街五十四番地に在りきそばを業とす同店は新藏前に近きため日々繁昌を極め居れり

○田中寫真館

同館は蓬萊町にあり有名なる寫真館にして技術の精巧と器械の整備は共に世人の均しく稱賛する所にして人物撮影に長ず

○藤井商店

蓬街小林亭の筋向ひにあり凍氷食鳥を販賣し鶏ソップを製造して配達し商號は「丸弘」と稱ひ蓬街は勿論区内著名の食鳥鶏ソップ商

有名なる商店の案内

○喜仙亭

(寫眞版参照)

喜仙亭は蓬街十八番地にあり輕便にして安直を以つて名を博したる料理店なり烏御料理とあひ鴨は同亭大の得意にして何時も二階に三絃の音絶ゆることなし夫れに出前の注文引も切れず目を廻はす程の多忙の中でも待遇の周到なることは他の遠く及ばざる處商店柄といひ能くやられたものは世間の高評なり

○桐屋第一支店

蓬街で傘履物を廉價に賣るみせはいづれの店であるか問はば桐屋第一支店なりと人もわれも答ふべし同店は明治三十三年いまの處即ち

十九番地に開業してより顧客絶ゆることなし商號は「茶」なり

○料理店小林亭

(寫眞版参照)

蓬街の小林亭といへば何人も知る函館一の割烹店として全盛を極め來りたるが明治三十四年七月より同年九月に至る迄増築の工事を爲し九月二十一日彌々落成し流石凝りに凝たる同家主人の考案として何れの間も數奇を極めざるはなく殊に其仕組は五階造となし下間は小間に切り幾間を設け二階は大の廣間三階は又幾室の小間に分つ四階は只一間是より草履にて五階の廣場デッキ風に造りたるセメント地

博し居るなり

○秋南商店

秋南商店は蓬街交番所の筋向角にあり「丸ト」を以て商號と爲す「丸ト」質店の分店なるが故に多くは「丸ト」の商號を呼ぶ専ら足袋股引ズボンの製造販賣を以て營業と爲し多年の熟練と勉強とを以て名聲を得たり其仕立の親切と價格の廉なるとは同店の特色にして區内幾多の需用者と近海の漁場へ多くの華客を有し其繁忙なる事日も是れ足らざるの觀ありといふ

盤に風雅なる鐵柵を廻らし限りなき青天井の開潤樓上南部津輕の青谷より本道内地の遠景を集め見渡す限り目に一物の遮るものなき愉快の眺望は本道は勿論内地府縣にも稀に見るの思ひ附きなり若し夫れ夏涼の夕べ或は秋月清き半夜風人雅客の閑遊會に擬すべくんば俠骨仙ならんとするの趣きあらん料理は和洋を兼ね調理巧妙にして新鮮と美味とは常に顧客の高評を博する所なり

○南 龜 谷

丸南龜谷は蓬街百二十番地にありきそば牛鳥なへを以て蓬街第一の世評を受け最も信用を

有名なる商店の案内

○浅田樓支店

浅田樓支店は逢街に在り會席料理を以て知らる函館稀有の料理店谷地頭浅田樓の支店なり

○今そばや

山崎蕎麥屋は逢街仲の町より浅利坂に向つて左の側にあり即ち百草湯の隣り有名なるそばやにして日々の來客群集雜踏し中々繁昌の店なり東川町五十二番地にあるそばやは同店の支店なり

○武藏野樓本店

(寫眞版参照)

武藏野樓本店は逢街百二十五番地に在り前掲寫眞版に示すが如く外觀は土藏と板塀を以て廻らす故に他の大籠とは異なり餘り見榮へせぬ方なり然れども其構へ最と廣やかにして清潔なる客室多く百事整備す奥床しくして俗塵を去りたるやの皮想は粹も不粹も賞揚して止まざる處なり加ふるに其位置の適所なるは自他共に函館稀有の大籠と許すところなり

現在の娼妓は

- 緑 繁世 八千代
- 信夫 芳野 清世 仲吉
- 春香 浅妻 幾代 操

○丸山樓

丸山樓は逢街仲の町右側にある壯麗なる三層樓なり其建築は明治二十七年にして構造見世向きより客室部屋の配置に至るまで其恰好なるは其設計は樓主の意匠を凝らししものなりと聞く室内清楚器具の完備せるは當廓中の大籠の巨擘なるべし而して同樓は日増し繁昌して遊客收益共に甚だ大なりと云ふ

現在の娼妓は

- 小紫 勝山 田毎 洲川
- 七越 武藏 力彌 和國
- 操 高尾 吾妻 園梅
- 盛糸 金龍 喜代の

有名なる商店の案内

○蓬萊樓

蓬萊樓は逢街仲の町左側に在り新たに築造したる五層樓の建物にして其壯麗なる逢街唯一のものなり同氏が世間の信用に依り其開業したるは誠に近年の事なるに早くも現に大籠の貸座敷となれるは必竟世間の信用益々厚きを加ふると及同氏の技倆とに依るべし

現在の娼妓は

- 小櫻 薄雲 八ッ橋 松島
- 綾衣 若島 信夫 白妙
- 君香 菊枝

○金菊樓

金菊樓は蓬街七番地にある大籠にして現在の娼妓は左の如し

- 金龍 豊橋 小三 千代治
- 元茶 小金 一元 操
- 若宮 小蝶 勝枝 七越
- みどり

袖浦 末廣 千秋 花町

○梅香樓

梅香樓は蓬街入口の右側にあり大籠として有名なり現在の娼妓は

- 若妙 白妙 圓梅 瀬川

○金盛樓

金盛樓は蓬萊町二番地にある大籠なり其現在の娼妓は

- 金八 いろは 金糸 竹川
- 小せつ 松山 金龍 立花
- 豊花

○武藏野樓支店

武藏野樓支店は蓬萊町東見番の隣りに在り函館稀有の大籠武藏野樓の支店なり

現在の娼妓は

- 一、二、三 玉章 小今 七越

現在の娼妓は

- 千代野 實井 越野 可祝
- 三好 小梅 小藤 春吉

○石港樓

是も蓬街仲の町丸山樓の隣りにある大籠なり現在娼妓は

- 三勝 清水 淺香 八重吉
- 瀬川 勝代 ぼんた 八重桐

○喜松樓

喜松樓は蓬街仲の町左側にあり現在の娼妓は左の如し

- 七越 深雪 左近 右近
- 初音 八千代 緑

○宮川樓

宮川樓は多く丸高と稱呼し蓬街八番地にある大籠なり

○喜笑樓

喜笑樓は天神町七番地にあり喜町の隣りにあり

函館案内

西見番は鍛冶町にあり同所に屬する藝妓は左の如し
 春吉 龜次 照吉 市松
 小ふじ 幸吉 小濱 しの松
 奴 かしこ 今吉 駒助

有名なる商店の案内

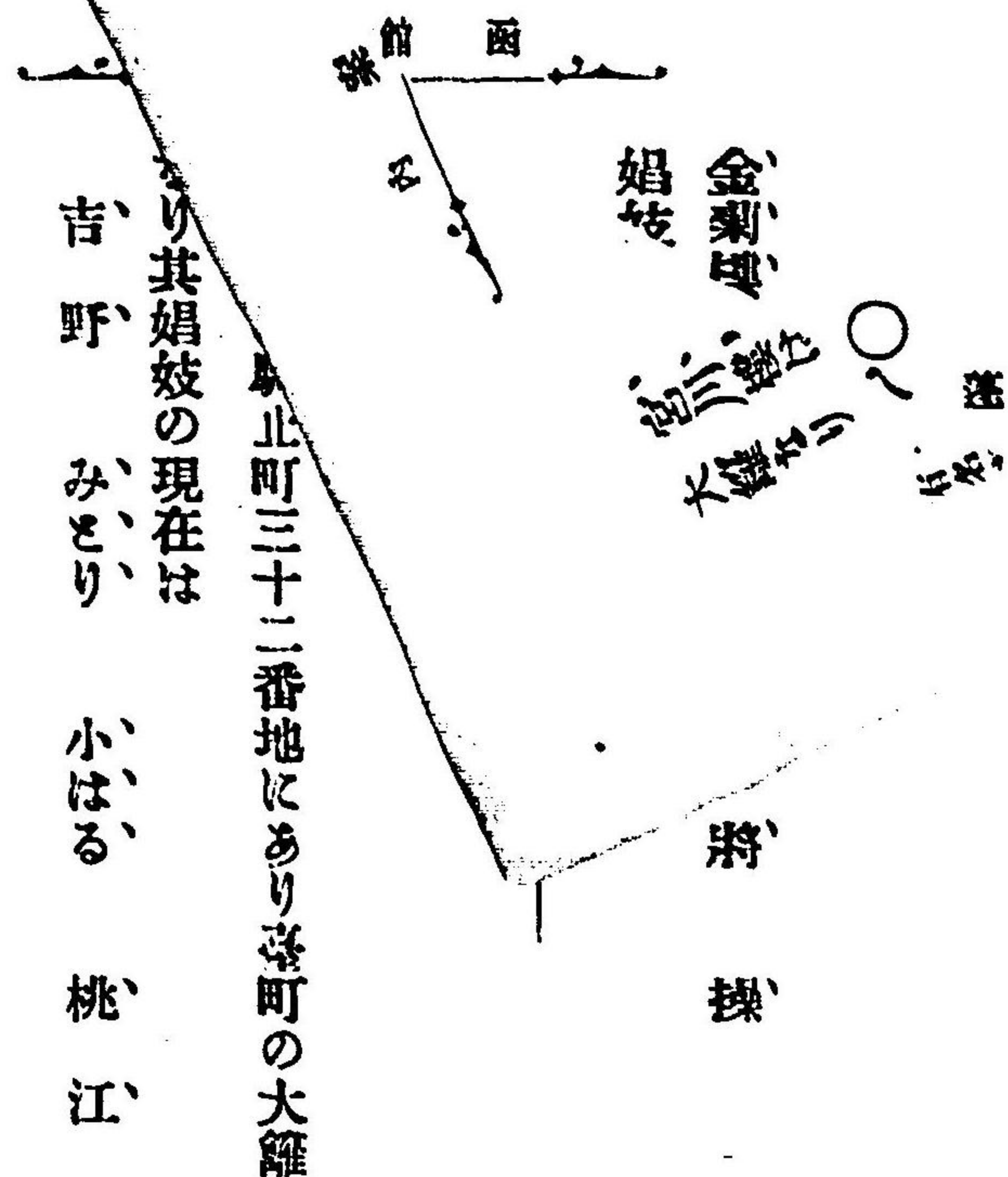
函館案内

終

○西見番

米八 六助 太郎 宮子
 まい い 喜太八 喜多 きち
 ふく 福助 才三 小てつ
 民治 小どり 高助 小金
 ぼん太 力丸 春子 三勝
 吉彌 小柳

小三 松助 三勝 小三
 福助 峯吉 豆太 小め
 小今 濱吉 花吉 小萬
 龜吉 小勝 ともへ しま
 一六 小ぶ 小高 市平
 萬歳 三太 福壽 小富
 梅子 かよ 小たけ 千代子
 小春 勝子 久子 かね子
 茶良子



東見番は蓬萊町にあり同所に屬する藝妓は左

○東見番

てゐる 京三 小三 小たい
 喜久壽 豊梅 なる 小なを
 小稲 元吉 勘吉 松壽 小なを
 あん子 千代丸 信子 初音 はん 小艶 蘭丸 小六 小松
 雪子 萬作 かの子 信子 初音 はん 小艶 蘭丸 小六 小松
 愛子 喜代治 小友 豊子 常子 小竹 房吉 壽々子 新吉 小んこ 妙子 五郎 高子
 小萬 喜代治 小友 豊子 常子 小竹 房吉 壽々子 新吉 小んこ 妙子 五郎 高子

て有名なり

現在の娼妓は

左近 右近 少將 操
中將

○岩手樓

岩手樓は駒止町三十二番地にあり蓬町の大羅
なり其娼妓の現在は

吉野 みどり 小はる 桃江

○東見番

東見番は蓬萊町にあり同所に屬する藝妓は左

の如し

て、る、京、三、小、たい、な、豊、喜、小、あ、小、喜、豊、な、小、小、京、て、
く、子、八、ん、子、久、梅、る、る、梅、人、裕、子、子、子、る、三、る、
小、喜、小、萬、千、元、勘、松、よ、小、君、金、富、
萬、代、友、作、代、吉、吉、い、な、を、吉、治、
み、百、豊、か、信、初、は、小、奴、蘭、小、小、濱、
な、代、子、の、子、音、ん、艶、丸、六、松、吉、
清、豊、常、小、れ、房、壽、新、と、妙、い、五、高、
の、の、子、竹、ん、吉、々、子、吉、と、子、く、郎、子、

内 案 館 函

内 案 館 函

米、八、六、太、宮、
ふ、い、喜、太、き、
民、治、福、助、多、ち、
ぼ、ん、太、力、小、高、才、喜、
吉、彌、丸、柳、春、子、小、小、
三、勝、金、つ、

○西見番

西見番は鍛冶町にあり同所に屬する藝妓は左
の如し

春、吉、龜、次、照、市、
小、ふ、じ、幸、吉、小、濱、の、し、
奴、か、し、く、今、吉、駒、助、

有名なる商店の案内

函 館 案 内

終

小、福、小、松、三、
小、今、助、峯、吉、
梅、子、歳、の、小、濱、吉、
小、春、勝、か、三、太、ぶ、勝、吉、
茶、良、子、久、子、小、福、小、と、花、豆、三、
か、ね、子、千、代、子、小、富、市、平、し、め、小、め、
か、ね、子、千、代、子、小、富、市、平、し、め、小、め、

◎附 録

◎全國汽車旅行其他必要事項

(三十三年九月二十五日調査)

○途中下車及切符通用期限

○東京神戸及高崎直江津間 五十哩以上の切符所持の者は左記の線に限り下車し再び乗継ぐことを得
 横濱、大船、蒲津、大磯、國府津、御殿場、三島、沼津、興津、静岡、濱松、豊橋、岡崎、大府、熱田、名古屋、一ノ宮、岐阜、大垣、米原、敦賀、武生、福井、小松、金澤、彦根、草津、馬場、大谷、京都、大阪、三ノ宮、神崎、神戸、大宮、熊谷、高崎、磯部、横川、輕井澤、小諸、上田、長野、直江津、高岡

五十哩以上の切符通用期限左の如し
 一 五十哩以上の乗車切符通用期限は五十哩以上百哩未満は二日、百哩以上は百哩未満毎に一日を加ふるものとす
 二 輕井澤に於て乗換を要せず高崎直江津間直行す

○急行列車

○午前六時二十分及午後六時十分新橋發神戸行 ○午前六時及午後六時神戸發新橋行
 右の列車には四十哩以上に發する際の外乗客及小荷物の取扱をなす但し左記各線相互間(除中間驛)は此限にあらす
 新橋横須賀間、品川横須賀間、國府津沼津間、沼津静岡間

附 録

間、馬場大阪間、京都大阪間、大阪三ノ宮間、大阪神戸間、
 ○上野青森及鹽竈間 五十哩以上の切符所持の者は左記の線に限り下車し再び乗継ぐことを得
 新宿、大宮、熊谷、高崎、前橋、桐生、小山、宇都宮、西那須野、黒田原、白河、郡山、福島、岩沼、仙臺、岩切、鹽竈、松島、一ノ宮、平泉、盛岡、尻内、青森、土浦、友部、笠間、水戸、關本、勿來、湯本、平、原ノ町、中村

五十哩以上の切符通用期限(東京神戸間と同)但し三百哩以上四百哩未満五日、四百哩以上六日)
 ○神戸馬場間
 五十哩未満一日、五十哩以上百哩未満二日、百哩以上は百哩毎に一日を加ふる

但し切符發賣當日を併算す又社線と他線との連絡切符には相互の哩數を通算す
 五十哩以上の切符所持せらるる乗客は姫路、岡山、笠岡、福山、尾道、糸崎、廣島、已斐、宮島、岩國、柳井津、徳山、三田尻、小郡の十四驛に限り下車し通用期限内再び後列の列車に乘継ぐを得べし
 但し官線と連絡の切符所持せらるる乗客は右十二驛の外神戸兵庫の二驛にても同様下車するを得べし
 前記十二驛外の途中驛にて下車せらるる乗客は最初の乗車驛より下車せらるる驛迄を一區域とし更に該下車驛より若し該下車驛を一區域として此二區域間に対する貨錢を併算し乗客所持の切符貨錢より超過せざれば其區下車を承諾すと雖も若し之に超過せば其差金を申受くべし
 五十哩未満の切符所持の旅客は途中何れの驛にても下車し

切符通用期限内は再び便宜の列車に乗継ぐ事を得
 ○日本鐵道會社線 乗車賃金三等は百哩まで一哩に付凡う金
 壹圓四厘、百哩以上は一哩毎に凡う金壹圓貳厘二等は百哩
 まで一哩に金貳圓壹厘、百哩以上壹圓八厘、一等は百哩ま
 で金貳圓五毛、百哩以上貳圓七毛とす

○旅客携帶品一時預入れの手續

○預り品は一個に付一日毎に左の賃金を要す
 一 重量三十斤以下一日金貳圓、一重量三十斤以上百斤迄一
 日金四圓、一自轉車又は小兒車一日に付金五圓
 ○預り品は預け入の日より一ヶ月を限りとし紛失毀損に對す
 る賠償額五拾圓以内とす
 但し燃發又は腐敗し易きもの、他品を汚損する虞あるも
 の、荷荷不完全のもの、重量百斤以上のもので又は運包其他
 長大のもの等は預け入るゝを得ず

○貨物運送便運送規定

一 貨物運送便は貨物の個數により計算し一個五十斤若くは五
 十斤未満毎に左記の賃金を要す
 但し荷物袋物の類にして斤量に一定標準あるものは斤量
 の個數を切捨て取扱ふことあるべし

哩程 百 哩 迄 二百 哩 迄 三百 哩 迄
 貨金 四 拾 錢 四 拾 五 錢 五 拾 錢 五 拾 五 錢
 哩程 三 百 哩 迄 四 百 哩 迄 五 百 哩 迄
 貨金 六 拾 錢 七 拾 錢 八 拾 錢

二 左記の貨物及之れに類似のものは貨物運送便により運送を
 なさざるものとす
 一 生絲、繭、絹布、生皮等、麥稈真田、燈心、藁、藁煙草、

○高級品(衣服、藥品、醫藥紙、其他)の運賃は日方百斤に付
 一 哩金六厘

○級外品(駕籠車、金銀器物、其他)の運賃は品物に依て異なり

○貨車借切並に割引賃金

○三級品以下の貨物一品積は一哩一噸に付金貳圓五厘高級品
 は四厘の割合なり

○級外品第一種生獸にして斤量を以て運送せざる場合には牛
 馬一車一噸に付二圓まで拾貳圓二圓以上一圓を増す毎に
 三圓増は六圓まで拾貳圓六圓以上一圓を増す毎に拾圓なり

○級外品第二種危險品は通常級百斤一哩に付七厘貨切扱一噸
 一哩に付貳圓五厘なり

○級外品第三種車輛類中一車一哩に付自轉車は壹圓五厘、人
 力車は貳圓五厘、小兒用車は壹圓五厘、馬車は拾五圓、荷
 車及荷馬車は拾圓、機關車及炭水車にして自己の車輛にて
 運轉するものは一哩一噸貳圓五厘自己の汽力にて運轉する
 ものは一哩一噸壹圓五厘客車及貨車の二軸又は三軸又は三
 軸以上のもの自己車輛にて運轉するものは一車一哩に付貳
 圓と四圓なり

○大貨物發着手数料は通常級一、二、三、高級品とも百斤に付
 貳圓、噸扱一噸に付拾五圓、貨切扱一噸に付拾圓●牛馬一
 車に付二圓まで參拾圓二圓以上一圓を増す毎に五圓●級外
 品通常級百斤に付貳圓、貨切扱一噸に付拾圓、自轉車、人
 力車、小兒車各貳圓、馬車荷馬車各五拾圓、荷車拾圓、客
 車貨車四拾圓、機關車炭水車拾圓なり

○斤に依り計算するものは五十斤未満は五十斤に、噸に依る
 ものは一噸に、通常級貨物にて一車を要するものは三噸未
 滿三噸に、貨切貨物は一噸未滿一噸に、哩程五哩未滿は五哩
 に、一哩未滿は一哩に切上く

織物器械、寒天、木製箱類、小兒車、干菜瓜、帽子類、
 紙和工品、生鳥、生獸
 但し時宜により所定賃金の倍額を徴收して取扱ふこと
 あるべし

一 危險品(一死體 一貨重品取扱となすべき物品
 一重大の物品)一個の量三百斤以上若くは才積四十立方尺
 以上の物品)

三 貨物運送便は鐵道作業局運輸部の定むる區域内に於ける受
 取人住所に配達するものとす

但し區域外に配達するときは配達料を徴收す

四 貨物運送便による貨物は荷造を完全にし且つ發送人受取人
 の住所姓名を明瞭に記したる木札二枚を附し託送すべし

五 貨物運送便列車及貨物運送便の取扱を爲す停車場は鐵道作
 業局運輸部に於て時々之を定む

○鐵道にて貨物運送の手續大要

一 鐵道にて貨物を運送せんとするものは貨物の等級に依りて
 運賃の相違あることと又貨物を淨山送るには貨切車ありて
 運賃の極めて低廉なることを知らざるべからず

二 貨物の等級は一、二、三級及高級品ありて之に級外品を加ふ
 れば以上五級ある都合なり其の一級品は何々にして二級品
 は何々に云ふことは一二頁の紙上に記載し離きに依り其の
 詳細なることは官私鐵道各驛の貨物掛に就いて聞かべし

○一級品(穀物、肥料、鹽、其他)の運賃は日方百斤に付
 一 哩金貳圓

○二級品(砂糖、鹽魚、紙、其他)の運賃は日方百斤に付
 一 哩金三圓

○三級品(陶器、煙草、酒、其他)の運賃は日方百斤に付
 一 哩金四圓

旅客手荷物並に小荷物運賃

里 程	無賃制限 外手荷物		貨金五圓 以下最低		貨金五圓 以上	
	百 哩 迄	五十 哩 迄	百 哩 迄	五十 哩 迄	百 哩 迄	五十 哩 迄
一 哩 迄	同	同	同	同	同	同
二 哩 迄	同	同	同	同	同	同
三 哩 迄	同	同	同	同	同	同
四 哩 迄	同	同	同	同	同	同
五 哩 迄	同	同	同	同	同	同
六 哩 迄	同	同	同	同	同	同
七 哩 迄	同	同	同	同	同	同
八 哩 迄	同	同	同	同	同	同
九 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十一 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十二 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十三 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十四 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十五 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十六 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十七 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十八 哩 迄	同	同	同	同	同	同
十九 哩 迄	同	同	同	同	同	同
二十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
二十 五 哩 迄	同	同	同	同	同	同
三十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
四十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
五十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
六十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
七十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
八十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
九十 哩 迄	同	同	同	同	同	同
百 哩 迄	同	同	同	同	同	同

- 輕便高品にして別に定むる品目に該當するものは一尺立方二斤以下のもの五倍、同四斤以下のもの三倍、同六斤以下のもの二倍の重量を算す
- 長十八尺以上若しくは三噸以上の瀾人なるものは五割、長三十六尺若しくは五噸以上のものは十割の増賃金なり
- 貨品増賃金は二十五哩未満價格百圓に付五錢、五十哩未満價格百圓に付五錢、二百哩未満價格百圓に付五錢、二百哩以上二百哩未満毎に五錢なり
- 動物運賃金は五十哩未満價格百圓に付五錢、百哩未満價格百圓に付五錢、二百哩未満價格百圓に付五錢、二百哩以上二百哩未満毎に五錢なり
- 貨物保管料は五十斤未満毎に貳錢、一噸未満毎に五拾錢、一噸に付貳圓なり
- 新聞紙、雜誌は遠近に據らず一斤に付金壹圓最低賃金五錢
- 新聞紙又は雜誌の運送を特約する時は運送金を前納し普通賃金の二割引但し牛ヶ年一萬五千斤以上托送の特約をなすときは普通賃金の五割引
- 死體 一人一哩に付金貳拾錢最低賃金四圓滿十二歳以下の小兒は其中額
- 馬車 一輛一哩に付金貳拾錢最低賃金四圓
- 人力車 一輛一哩に付金參圓最低賃金六拾錢
- 自轉車 小兒車は一輛一哩に付金貳拾錢最低賃金四拾錢
- 大口表面に掲ぐる割合を以て運送す然れども客車に載することを附随す大箱に入れ急送車にて運送すべし故に持主は皆輪首細口網の用意あるべし
- 手荷物小荷物の保管料は一個に付二十四時間若しくは未満毎に三十斤まで貳錢、百斤まで四錢、百斤以上六錢なり(貨品は二倍)

附 録

四

- 馬車の保管料は一個に付二十四時間若しくは未満毎に拾錢
- 人力車自轉車小兒車は五錢なり
- 生獸は總て鐵道運輸規程第七章に従ひ運送すべし
- 以上掲ぐる賃金の所以下は錢位に、一斤未満は一斤に、一哩未満は一哩に切上ぐべし
- 運送中に起りたる損失は持主の引受にて鐵道局は其責に任ぜず
- 以上掲ぐる賃金は持込配達の賃金を込めず然れども小荷物に限り其請取人の住所まで配達すべし但し配達賃は十斤迄の物品は金五錢十斤以上は十斤(若しくは十斤未満)毎に金壹錢の割合を以て送出人より受取るべし
- 手荷物賃金は必ず前拂たるべしと雖も總て受取らざる場合は於ては中間駅或は着駅にて受取るべし
- 小荷物及其他の物品は託送せんとする列車の刻限より少くも二十分前に「ステーション」の小荷物取扱所に渡すべし否らざれば其次の列車にて運送する事あるべし
- 金銀貨並地金銀、寶石、金玉細工物、紙幣、郵便切手及金銀に係る證書等貴重品は左の割合を以て運送すべし

里 程	金銀貨並地金銀、寶石、金玉細工物	紙幣、郵便切手、貴重品
二十五哩迄	一斤に付 貳錢	一斤に付 貳拾錢
五十哩迄	同 參錢	同 參拾錢
百 哩 迄	同 四錢	同 四拾錢
百哩以上(若しくは十哩未満)毎に	同 壹錢	同 拾錢

- 白粉貨、生絲、絹絲、絹織物、組物、編物類の運賃は手荷物運賃と同一なり但し最低運賃貳拾五錢
- 鐵道局は托送の貨品を安全に運送し及受渡を爲すため相當の注意を加ふべし然れども増賃金を支拂たる外は損失は一切其責に任せず
- 貴重品の運送は特に定めたる列車に限り取扱ふものとす故に托送者は「ステーション」に就き其時間等を問合すべし
- 貴重品托送者は列車出發時刻より少くも三十分前送込「ステーション」の小荷物取扱所に現品を持参すべし
- 以上は官設鐵道の規定なれども私設鐵道も亦此の規定に従つて手荷物及小荷物を取扱ふ尤も運賃は各鐵道會社に通じて前記の運賃より割引するもの存く中には三割方も安き運賃にて取扱ふ會社あり
- 里程は參宮鐵道の如きは五哩毎に運賃の相違ありて短距離の間は小荷物を送るには大に便利なり
- 又南海鐵道の如きは全く異にして大を除くの外は量目幾斤何噸と何噸との間運賃幾錢と云ふの定めなり
- 手荷物は鐵道局を始め各鐵道會社を通じて一等客は目方百斤、二等客は六十斤、三等客は三十斤を制限す制限外は前記の表に照らし相當の貨賃を拂ふべし
- 小荷物は毎客車便に運送するものなれば商品の見本、親戚朋友の間に贈受する少量の荷物運送には極めて安全に且つ速達の便あり又鐵道線路の聯絡せる道中は其の各鐵道を通じて運送するを得るの便あり(例へば官線の弘前驛發送の小荷物日本鐵道の奥州線及赤羽線を経て更に官線の東海道線に移り最後に山陽鐵道線を経て三田尻驛に着し同驛より宛名の人に配達するの類)此場合に運賃は總べて鐵道局の規程通りなり

附 録

- 小荷物の配達に就ては官私設鐵道區々一定せず日本鐵道の如きは各驛の市町村内に配達を爲し其他は概して重要驛の市町村内には直配達を爲すの外は荷物取扱店にて取扱ふ尤も甲武鐵道は未だ配達を取扱はずと云ふ
- 小荷物は金貳錢を拂へば二十四時間「ステーション」に預け置くことを得若し二日間預り置くときは更に貳錢を増すべし途中驛にて用事ある旅行者には最便利なり

◎ 内國郵便略則

- 郵 便 稅
- 信 書
- 目方 四匁迄 參 錢
- 同 八匁迄 六 錢
- 以上右の割合を以て目方四匁迄を増す毎に税金三錢づつを増して納むべし
- 書籍類並に見本
- 目方 三十匁迄 貳 錢
- 同 六十匁迄 四 錢
- 以上右の割合を以て目方三十匁迄を増す毎に税金貳錢づつを増して納むべし
- 官報並運信省認可の文字ある新聞雜誌類
- 但し書籍は一個の目方三百匁迄見本及び雛形は一個の目方百匁迄に限りべし
- 一號一個にて差出すものは
- 目方 二十匁迄 五 錢
- 同 四十匁迄 壹 圓
- 以上右の割合を以て目方二十匁迄を増す毎に税金五厘づつを

五

東京日本橋本町
三井呉服店
大阪高麗橋二丁目



地方よりの
御注文は
清子紙に
御申越し
はと即日小
包郵便に
奉送可也
尚御注文
内書は角
の節は
報次承送
可也上外

023217-000-1

88-233

函館案内

小野寺 一郎 / 著

M35

ADC-0056

